



蘭使日本紀行

一

ル 3
1140
1



門ル3
號 1138
卷 14

門ル3
號 1140
卷 /

阿蘭商會日本使節紀行

キユムブレ(イギン)氏著 一六六九年刻

○伯帶比亞ヨリ日本ニ往復スル印土船僅少ナラ
ス。三年毎ニ東印土商會ヨリ一使節ヲ送り。莫大
ナル進物ヲ日本將軍ニ獻スルナリ。其華麗ナル
一驚クニ堪タリ。又記録スルニ堪タリ。天工物ア
リ。人工物アリ。又西班牙。及暹羅。又羅馬政府ヨリ
現著ナル進物ヲ捧ケリ。皆本式ニ交テ結フ所ナ
リ。然ルニ何故ニヤ一國ヘモ日本ヨリ使節ヲ送
ル。一ナシ。唯數年前ニ支那ヘ一使ヲ送りタルア



天正十年肥前ノ諸
族大村純忠及高
城主有馬義純等使
臣ヲ召來船ニ託シ
テ羅馬ニ赴カシメ
書信方物ヲ法王
十三世ニ贈ル蓋シテ
西ノ洋教ヲ傳ヘ來
リシヨリ西國大半
其教ヲ奉セサル者
ナシ故ニ大村有馬ノ
諸氏モ此奉アルニ至
レリ

又千九百八十二年西班牙及羅馬ニ有馬及大
村候ノ血族共ニ十五且ユリアニユス 役名カ中浦及
マルチニユス 役名カ原外ニ從僕二人合シテ六人洋
教ヲ奉スルノ見込ニテ出立セリ印土派遣宣教
師アレキサンデルハリグナニユスノ所業ヲ親視
スルヨリ此少年ハ歌羅巴ノ結構ナルトニ心醉
シ此好奇ノ意ヨリ大旅行ヲ企テタリ然レハ
リグナニユスハ唯耶換教ヲ以テ釋教ニ入替ヒ
此遠來ノ貴人ヲ更ニ貴カラシメシトテ勉メリ
チユアニユス氏此事ヲ有名ナル歴史第八十一

譯者曰ク本文語意
漸續アリ大ニ解ニ
苦シム此長崎出帆
ハ大村有馬ノ兩使
ヲ言フニ似タリ

卷ニ記セリ

余日本使節ノ長路ヲ經テ羅馬ニ至ルノ履歷ヲ
記スルノ前ニ於テフランシスコバイス氏ノ長
崎ニ至リタル話ノ續キヲ説クヘシ千九百八十年
六年三月二十日長崎ヨリ出帆セリ北東風強吹
スカハルロス島ヲ經過シテコイギーン及五島
ニ至ルニ大ニ静穩ナリ三宅島ト支那陸地トノ
間ニ大洲アリ是ニ於テ大ニ北北東ヨリ風強吹
ス但シ雲ハ南西角ヨリ驅逐セラル舟子皆驚キ
懼レ為ス所ヲ知ラス唯某氏アリ曰ク此海ニハ

屢此ノ如キヲアリ。危険ナルヲナシト。既ニノ左
側ニカマロインス低島ヲ見。舳ニ圓島バボキシ
ンヲ見ル。忽チニ激浪アリテ。バボキシンヲ失シ
支那ノ一陸地ヲ見ル。帆ヲ縮メテ進行セシニ。小
害ナクゾ。ラントンニ向ヘリ。北東。及南西ハ海深
ク。海水ハ過多ノ泡沫ト。トウコアン河ヨリ溢出
スル激浪ノ為ニ大ニ荒ル。則チ船ヲブランコ島
ニ進メ。更ニドレノ島ニ達セリ。此島見テ小ナリ
トセシニ。近接スルニ及テ其大ナルヲ知レリ。次
テレノヲ退キ。遠カラスシテ瑪港ニ達セリ。

此一章ハリスコー
テマ港ヨリ日本ニ
到ル紀事

ニバイスノ歸去前二年ニ。ヨアンヒユイゲンフハンリ
ンスコートン。同路ヲ經テ瑪港ヨリ日本ニ赴ケリ。
則チ六月十九日。ダスオユテアス島瑪港海ノ
ヨリ出帆セリ。大島アリ。ジーヘント名ク。更ニ一
島アリ。階圓ナリ。北ニ距ルヲ半里。荒野ナルノミ
又一島トシキユアンニ似タルアリ。十礁アリ。然
レ北東尖ニ良キ入海アリ。颶風ヲ避クルニ足
ル。遠カニラモンヲ離ル。此地ニハ海賊多ケレハ
之ヲ避ケンカ為ナリ。曾テ葡船ヲ射シハ。此地ナ
リ。故ニカバキユオンヲ經テ。支那陸地ニ向ヘリ。遠

七人姉妹
一名七人兄弟

カラスノハレルヲ見ル。赤色ノ石アリ。シノゴ
ン港ニ突出ス。レギエオベキエノニ近接シテ高
島アリ。遙カニ聳ユ。二十五度ニアリ。此地ニテ久
シク浮泳セルセスベトネ。魚名カ。及白色ノ
貝ヲ見ル。但シ十五里ヲ過ルニ。次第ニ減少セリ。
是ニ於テセトヘンゲシユステルス。七人姉妹ノ見ル
是其形状ト員数トニ因テ此名アルナリ。前面一
島アリ。中點大ニ突ル。其西脚ニ一礁アリ。氷柱状
ナリ。北東ニ黑色礁アリ。此七島ヲ見サルニ及テ
高ク階圓ナル島アリ。エコート名ク。樹木多クノ

黒色ナリ。リシスコートン更ニ北東ニ向ヘエコー
ト種ヶ島トノ間ヲ經。海水極テ深クノ暗礁ナシ。
一山アリ。以太利ノヘセヒウス。及悉西里ノエト
ナニ異ナラス。盛ニ火ヲ噴シ。煙ヲ出ス。海上ヨリ
遙カニ之ヲ望ムヘシ。但シ種ヶ島ハ長サ八里。西
ニ港アリ。岩礁多シ。島ノ低地ニ丘陵多シ。大ナル
松樹アリ。種ヶ島ヲ距ル。一八里。北ニ帝國日本ア
リ。エビユキシ。一入海アリ。危険ヲ經テ之ニ入レ
ハ大ニ静穏ナリ。瑪港ヲ辭スルヨリ十一日ニノ
日本海岸ニ着セリ。

此使節ニ托シテ日本
人ヲ羅馬ニ送りタル
ナリ。

再ヒ日本使節有馬及大村ノ旅行ヲ説クヘシ。印
土。西班牙。以太利。及歐羅巴彼此ノ地ヲ經歷セリ。
危難ノ水路ヲ經テ。世界ノ遠隔地ヨリ。王命ヲ奉
シテ来ルヲ見テ。皆驚愕セリ。

二月長崎ニ着シ九月
出帆ハ誰氏ヲ言フヤ

既ニノ二月二十日ニ長崎ニ着シ。恐ルヘキ颶風
ノ後。十八日ニソ京都ニ達セリ。船中ニ在ル。九
月ニソ復ヒ出帆セリ。薩門答刺ト。新嘉波トノ間
ニ洲アリ。其危険ナル。麻六甲ニ譲ラス。曾テ一
船濱ニ衝突シ。嗎哈黨ノ押領スル所ト為レリ。ノ
ナビユルヨリ進テ。コンシオンニ着セリ。此市ニ全
全一年居留ハ兩使ヲ
言フニ似タリ

此着岸ハ誰氏トヤ
シントレト紀事

一年居留セリ。卧亞ニ向テ退去セシ。印土ノ亞
王フランキシユスマスカルグナ氏。大ニ之ヲ饗應シ。終ニ
サントヤコップ船ニ乗り。進行シ。ノニウスロデリ
キユスニ導カル。蓋シハリグナニユスハ卧亞ニ在
留スヘキ命ヲ受タレハナリ。

三五月十三日。シントレニ着セリ。此島ハ周圍
小ナレ氏。樹木繁茂シ。野菜多ク。野獸アリ。海ニ魚
多ク。造化ノ芳苦セル舟子ヲ慰ムル為ニ。尤モ注
意シテ設クル所ノ好地ナリ。
抑モ此島名アル源ハ曾テ葡萄牙人。五月二十一

日ニ始テ之ヲ復見シタルニ因ル。故ニサンチン
ノ日ト云フ義ニ取ル。南緯十六度五十分ニアリ。
大海中ニアリ。喜望峰ヲ距ル。五百五十里。ア
ン
ガラヲ距ル。三百九十里。ブレシルヲ距ル。五
百十里ニアリ。此島ニ最モ近キハ。此諸地ナリ。周
圍大畧七里。高ク水上ニ枝ク。海岸ニハ尖岩圍繞
シ。内部ニモ岩石山及谷アリ。就中ニ箇ノ美谷ア
リ。一ヲ寺谷ト名ク。寺アル山ノ後ニアレハナリ。
南方ニ一谷アリ。果谷ト名ク。橙。檸檬。及石榴多ク。
五六艘ノ船ニ供スルニ足ルカ故ナリ。寺ノ西ニ

好キ碇泊所アリ。但シ碇ヲ費ヤサハル為ニハ。勉
テ島ニ近接スルヲ要ス。蓋シ山陰ノ谷大ナルカ
故ニ旋風大起スルヲアレハナリ。

三 此島ノ大氣ハ。恰好ニノ健全ナリ。舟中ノ病者。此
地ニ至レハ皆速カニ回復ヲ得ヘキナリ。其低所
ハ炎熱堪ヘカラサルモ。山上ハ非常ニ寒冷ナリ。
常ニ寒風アルニ由ルナリ。毎日雨ヲ下ス。五六
回。日出後必ラス雨アリ。此島ハ枯瘦ニシテ乾燥ナ
レ。極テ清潔ニシテ良好ナル水アリ。寺谷ニハ甘
味清潔水アリ。山ヨリ出テ海ニ入ル水。夫好テ身

ヲ洗滌スル所ナリ。更ニ二所ニ清水アリ。
此島ニハ住民ナシ。其野獸多キハ。葡萄牙商人ノ
曾テ移種セシ所。其恩ヲ感謝スヘシ。
千九百二十年ニ。葡萄牙人。此島ニ碇泊シ。此島ノ
良好ニ。安閑ニ生テ送ルニ足ルヲ察セリ。塵世
ノ紛擾ヲ厭ヒ。船中ニ飼フ所ノ鹿。兔。及鶏ヲ。此地
ニ移シ。自ラ慰メリ。是ヨリ野獸次第ニ増息シ。往
復スル船舶ニ多敷ヲ供スルニ至レリ。殊ニ葡萄
牙王ヨアン。公告シテ。此島ニ住居スルヲ禁セシ
ニ由ル。

土地ハ原來枯瘦シテ乾燥ナレト。雨多ク。又山ヨ
リ流れ出ル川アリテ。自ラ適宜ノ滋润アリ。菓樹
ヲ養フニ足ル。豆類モ其熟スル者落テ自生スル
ノ種トナル。
滿林橙。檸檬。及石榴アリテ。全年花アリ。實アリ。又
夥シク無花果ヲ生シ。黑檀。及薔薇アリ。然レト。脆
弱ナルカ故ニ。用ニ適セス。各谷殊ニ寺谷ニハ。洋
芹。芥子。馬齒莧。酸模。野生羅馬加密列。酸漿アリ。共
ニ大ニ舟客ノシケウルボイク。血液衰敗スルヲ防ク
ニ足ル。

森林。及山間ニ動物多シ。山羊。野牛。鹿其大ナル者ハ。又小犢。ハ
ニ似タリ。各色ノ野豚ナリ。然レ氏之ヲ捕ヒ難シ。
葡人始テ此島ヲ發見セシ時ニハ。四足獸ナク。果
樹ナシ。唯清新水アルノミ。然レ氏葡人至ルノ後。
之ヲ培養セシニ非サルニ。自然ニ蕃息シ。今日ニ
及ヒ各谷ニ充滿スルニ至ルハ。實ニ驚クニ堪タ
リ。是此島ニハ渡航スル者ナク。住民ナキカ故ナ
リ。又山鳥。鳩。コルフ。インデレン。一種ノ。及孔雀アリ。射獵
シ得ス。但シ狼。象。熊。鷲。スベルウエル。鳥名。鷲。蛇。龜。或
ハ壁虎等ノ猛獸。及惡鳥ヲ見ス。唯甚大ナル蜘蛛

及綠色蠅ノ益ノ如キヲ見ル。岩礁上。又島ノ南側
ニハ灰色。及黑色ノ鷗夥シ。又白色。或ハ斑アル鳥
アリ。其頸長キアリ。短カキアリ。礁上ニ卵ヲ置ク
之ヲ食スルニ極テ美味ナリ。十六百八年我カ船
東印土ニ航スル者之ヲ痴鷗ト名ケリ。蓋シ杖ヲ
以テ之ヲ折殺ス。ヲ得ベケレハナリ。
④岩礁ニ衝突シ遺存スルノ海水。日熱ニ曝サレ。自
然ニ白色ノ好塩ヲ結フ。又上好硝石ヲ自生ス。又
赤色ノボリュエス土名ヲ出ス地アリ。此土ヲテルラ
レムニアト名ク。蓋シレムノス島ニ産スル土ニ

異ナラサレハナリ。其脂頂。及舌ニ附着スルノ性
相同シ。南東部ニ満山美麗ナル赤色。暗色。輕色。及
褐色ノ染料ヲ出スアリ。又東部ニ眞珠色ノ染料
ヲ出ス。輕色ト褐色ノ間ナリ。
此島ノ海ニハ魚類多シ。然レモ海底渾濁。波浪激
動スルカ爲ニ洋角ニ於テ渙スルノミニテ。沖ニ
テハ捕フルノ能ハス。殊ニ鯖。マス。トバンケルス。魚名ゼー
ハーネン。魚名ブラエセム。魚名カルペルス。魚名アリ。又臂
大ノ蛇アリ。美味ナリ。又貝介。牡蠣。蟹等アリ。其味
英吉利産ニ勝レリ。又海藻ノ岩礁ニ固着シ。刀ヲ

日本兩使ノ記
羅馬法王ニ謁ス

以テスルニ非サレハ剥シ取り難キアリ。此島未
タ開拓セス。住人ナシ。是葡王ノ住居ヲ許サレ
ハナリ。蓋シ其終ニ私有ニ帰スヘキヲ恐レテナ
リ。
許多ノ辛苦ヲ經ルノ後。上ニ記スル日本人ハ里
斯本ニ達セリ。カルジナル僧官アルべルトア
ウストリウス氏。レークスベスチールデル。國ノ文兼
ラカンセノハルトク。候。大ニ之ヲ饗應セリ。ギユア
タリエベ。及トレドヲ經テマドリットニ着セリ。西班
牙王之ヲ親愛シ。有名ナル宮殿。エスキユリアルニ

送レリ。而ノ爲ニ寶庫ヲ開ケリ。三月ニシテカ
スチリーニ送リ。アリカシテ離レ。マヨレ
ア。及ミノルカ島ヲ經ビサ港ニ至リ。ベールニ
謁シ。其弟フラスタル。フロレンセハルトニ送レリ。
其鄭重ナル。フロレンセヨリ。マドリフトニ至
ル。時ニ劣ラス。

此ノ如クニシテ終ニ羅馬ニ達セリ。法王ヨリ寺領
ノ境マテカルジナールヨレネスフランキシユスガ
ムハラヲ出シテ。日本人ヲ誘導セシム。日暮羅馬ニ
達セリ。宗教ノ長カラウジウスアキユアヒハ。此到着ヲ

祝シ之ヲ自家ニ誘ヒ止宿セシム。蓋シ日本ヲ出
シヨリ。三年一月二日ヲ賞ヤシテ。茲ニ至レルナ
リ。

天正十三年カ

第十三世法王拜謁

一日ヲ隔テ第十三世法王グレゴリウスニ謁セリ。行
装極テ美ナリ。前驅ハ法王ノ護衛隊ナリ。粧飾華
麗ナリ。後從隊ハズウエツチエル人。及カルジナール
ノ家族ナリ。皆紫色ノ粧飾ナリ。諸候。及諸王ノ使
節ハ。第三隊トナリ。鼓ヲ鳴ラシ。喇叭ヲ吹ク。而シテ
日本人ハ三枚ノ絹外衣ヲ着セリ。鳥花。及水葉ノ
縫箔アリテ。相錯綜ス。外衣長ク整レテ地ニ接シ。

前面ハ相筒ク。洞キ袖アリ。頸ニハ貴重ナルスロ
イエルヨリ胸ニ如ク作り。肩ノ腰ニ双刀ヲ帯フ。眞珠
及金剛石ヲ装スル。夥シ。羅馬貴人ハ皆其局ヲ
鎖ツ。而シテエンゲルビユルグノ大砲ハ皆打出セリ。
ビスコップ。アールツビスコップ。及カルジナルニテ。法王
ヲ圍繞シ。各美衣ヲ服ス。其狀恰モヤコブスアウギユス
チユスチユアニユスノ全世界ノ專制諸王ノ威光ヲ輝
カス如シ。余チユアニユスノ語ヲ記ス。則チアルレルゲリユ
ツクサーリイステ。最上ノ幸福ヲ共フル佛ヲ謹テ拜
シ。且其足ヲ吸フノ後。日本人捧クル所ノ以太利

三王トハ大村有馬
ノ外ハ誰ナルヤ

語ニ譯シ。立派ニ記セル三王ノ書ヲ朗讀セリ。
原本第二十五。二十六葉ヲ脱ス。
考ノヘキナシ。可惜。

千五百八十五年六月三十日。日本人ハ法王ノ足
ヲ吸ヒ。敬禮スルノ後。歸途ニ就キ。マンカハルコ
ニ於テ。コラハノ體ヲ尊奉ス。此心中ニハヘラ
ンブレーデン。隠レタルヲ見ルヘシ。アシハウム
ニ於テ。名譽アル。五ヶ所ノ割ヲ蒙ル。後ヲラ
シシスキユスノ着シタル鬘。及毛衣ヲ見ヘルハ
。レンニ於テ。五百年前ニ昇天シ。再ヒ神前札上
ニ来ルノ小狐ヲ見ル。但シ此等ノ件ヲ數フルハ

天正十年長崎ヲ出帆
十八年帰朝ス

カナリインノビスエツポノルシオルカニユス
ハ無要ナリトスル所ナリ
日本人ハ是ヨリ途次マシテニアラシトシ西班牙
及葡萄牙ヲ經テ日本ニ歸レリ天正十年八月
月二十一日長崎ニ着シ次テ京都ニ入レリ是日
亦貴人ノ歐羅巴ニ至ルノ嚆矢ナリ再後合衆阿
蘭ハ日本ニ航路ヲ開キ大利ヲ得タリ殊ニ葡萄
牙人ノ通商ヲ禁セラルノ後最モ然リ蓋シ耶蘇
教徒騒動ノ片葡王ハ船ヲ舣シテ日本ヲ襲ハン
トスル隱謀アルヲ阿蘭ヨリ早ク書ヲ寄セラテ預

ノ報告注意セシメタレハナリ

葡人事ヲ議スルニ遲疑シ千六百四十年始テ

着手セリ阿蘭人ハ三年前ニ於テ早ク既ニ航路

ヲ開キ莫大ノ進物ヲ捧ケテ日本將軍ノ幸福ヲ
祝シ大ニ親睦ヲ得タルハ則チ大利ヲ得ル所以
ナリ

阿蘭人平戸開商ス

其始テ貿易場ヲ開キシハ小島平戸ニ於テセリ

東ハ豊後一名四國北ハ竹島南ハ五島ナリ此ニ

島ハ共ニ海中ニアリ平戸ノ港ハ日本小船ニハ

適スレモ阿蘭ノ大船ニハ不適ナリ何トナレハ

港口極テ狭ク之ヲ通過スルニ危フケレハナリ。其高浪ナルカ或ハ颶風アルニ方テ水渦ヲ避ケ船ヲ保安スルニ難シ。海底泥濘ニノ多洲アリ。是阿蘭船ノ屢危難ニ過フ所以ナリ。例之アムステルダム^船及ヤクト^船ゴロル^船ノ難船ノ如シ市街ニ列ヲ為セリ。住民家屋木造ニテ租ナリ。薄板ヲ重層シテ屋脊ヲ覆フ。微力ノ商人ハ此屋ニ在テ販賣ス。然レモ東印土商會ノ此地ニ貿易ヲ始メシ以來大ニ平戸候ヲ富饒ト為セリ。何トナレハ各地ノ商人競ヒ來テ阿蘭人ト通商シ。為ニ新居

ヲトスル者多ク。地稅ヲ候家ニ納ムルノ巨額ニ及ヘハナリ。就中阿蘭通商以來數年ナラスノ新街ヲ用クノ多ク。早ク既ニ四十街ニ及ヘハナリ。
⑥阿蘭商會所有ノ高館ハ木造ナリ。四大室。五小房ニノ更ニ庖厨。食堂。客房アリ。港ニ接シ搦アリ。水ニ入ル。然レモ極テ粗末ニノ堅固ナラス。火災。盜難。及風雨ヲ凌クニ足ラス。故ニ千六百四十年ニ阿蘭商會ニテ石室ヲ營ント企テ夕リ。然ルニ政府之ヲ許サス。終ニ長崎ニ轉移スヘキヲ命セリ。平戸ノ高館ヲ隔ツノ半里許。海灣ニ一本箱アリ。

一六〇九年和蘭始テ
通商ス慶長十四年
ナリ

幅高共ニ一尺ニ過キス妊婦群ヲ為シ来リ祈ル
蓋シ男ヲ攀ニテヲ求ムルナリ
之ニ米ヲ捧ケ且木棍太サ長サ指ノ如キ物ノ一
端ヲ彫リ陰莖ノ状ト為シ併セ呈シテ頻回唱テ
曰ク妾ニ男子ヲ授ケヨ然ルヲ得ハ更ニ大ナ
ル品ヲ呈スヘシト

阿蘭人平戸ヨリ許多ノ荷物ヲ小舟ニテ長崎ニ
輸送シ且東印土商會ノ常用雜具ヲ備フルニ巨
額ノ金ヲ費ヤセリ十六百三十四年アムステルダ
ム人メルキユルオルサントホルド氏寛永十一年三十年前マキユ
号船ニ

平戸ニ商館ヲ置ク
一三年ニノ寛永
十七年ニ長崎ニ移
リタルナリ

乗シテマゲルラネスヨリ航スル時漂流シテ日本ニ
至リ終ニ此地ニ滞住セルアリ阿蘭人平戸ヨリ
移轉セシニ因リ自來長崎ニテ貿易スルトトナ
レリ

ブロクホヒウス
アントラスヒリシウス

此般ノ使節ハ正使ハブロクホヒウス氏ニテ巨
商アントラスヒリシウス氏副タリ江戸ニ赴キ日
本將軍ニ拝謁センカ為ナリ旅装ヲ整頓シ更ニ
日本將軍ハ呈スル高價ナル進物ヲ調理ス此一
行ハ三船ト一小舟ナリ指揮官ハカロン及デム
ノルト共ニ乗客ヲ誘導スブロクホヒウス氏及

伯帯比亞紀事
カラツパ
ヤカトラ

ヒリシウス氏ハレールウワールテン予船ニ乘リ千
六百四十九年七月二十八日正午少後ニ伯帯尼慶

此地ハ最初カラツパ後ヤカトラ最後ニ伯帯比亞
ト稱セルナリ抑モ此最後ノ名稱アル所以ハバ
タヒールスニ基ク此人ハヘイランドニ生レ當
時カワテント稱スルヘツセン國人ニ追放セラ
ル蓋シヘツセンヨリバタヒールスノ名出ツ此
類例ハヘンセンニアルバデンベルグ及バテン
ハウセンナリ又レイデン外ハ疑ハシキカワテ

ンウエーテヲデルバタヒールスノ領地ナリトセ
リ

コルネリスマイリーフデヨング氏千六百零七
慶長十二年
年此地ニ到レリ當時ヤカトラト稱ス氏哇式ニ
倣テ茅屋ヲ造リ木堀ヲ築ケリ但シ租ナリ島
王此時石壁ヲ築クノ企アリ此宮殿ハ通り抜ケ
ニノ葎ニテ作ル四艘ノ舟アリ此中上ニ揖手下
ニ兵卒ヲ置ク多ク胡椒ヲ植ユ然レ氏三百囊ニ
上ラス東印土高會此王ト契約シテ貿易ヲ為セ
リ然ルニ其約ヲ守ラス頻ニ運上ヲ増加セリ

英蘭戦争
英船十一
蘭船七

改ニ之ヲ固定スルニハ兵力ヲ強フス一キヲ決セリ。

英人モ蘭人ト共ニ此地ニ通商セリ。此ニ國間ニ不和ヲ生シ。遂ニ戦争ヲ開クニ及ヘリ。其戦日午ヨリ夜ニ至レリ。双方勇戦シ。終ニ蘭人敗績セリ。何トナレハ七船ヲ以テ十一船ニ對スレハナリ。止ムヲ得スアルボイナニ退キ。救援ヲ求メントス。然ルニ此時ヤカトラ王ハ英人ト謀ヲ合セテ大ニ蘭人ヲ苦シマシメリ。蘭人ハ新ニホイスマウリチウスヲ築ク。南ハナソウト名ク。北方濱ニ

沿テ土手ヲ築ク。高サ九尺。厚サ七尺ナリ。胸壁ナシ。敵ニ對シテ曝露ス。東方ハ三夫ナリ。町ニ向フノ角櫓ハ半成セリ。ホイスマウリチウスニ沿テ北方ノ川端ニハ地上ニ尺ノ堤ヲ築キ。激浪ヲ堰タリ。其地ニ大砲二門。小砲五門ヲ備フ。而シテ北東海端ニハガルデーント同シ。高サニハルレサレデシヲ備フ。護胸壁ニハ木製ノ屋脊ニテ雨ヲ防ク。七個ノサレケルスアリ。北東方ニハ尙未タ防禦ノ策ヲ設ケス。唯竹ノバツペルヲホイスナスソウト及ガルデーニ砲門ヲ開キ。他ハ全部ヲ塞ク。

ヤカトラニテハ堅固ナル壁ヲ築キ周回ニ赤石
ヲ用テ内ニ大砲ヲ備フ又英ノ倉庫ニハ綱木及
土ノ防禦アリテ阿蘭人ノ侵入ヲ防ク英人復砲
シテ開戦ヲ表ス蘭人之ニ應シ城ヨリ出テ支那
街ガラーヘン街英ノ砲臺及倉庫ヲ焼ク而シテ河
濱ヲ押領セリヤカトラヨリハ瓜哇人復砲シテ
蘭人ヲ打フ之ヲ防ク者二百四十人其内八十人
ハ黒奴ナリ

○然レニ英ノ船隊ヤカトラニ向テ者十一艘ナリ
我主宰クーンハオラデゴン船中ニ在リ其指揮

スル所ハデルフトゴウデレーウーアムステルダム
ワールベンエンゲルフルク及ヤーゲルナリ共ニ重載ス
故ニ放砲ニ便ナラス然リト雖英船ニ近接ス但
シ風強吹スルヲ以テ帆ヲ張ル能ハス故ニ小
砲ヲ放ツノミ英船紅旗ヲ飄シテ大ニ喇叭ヲ吹
キ帆ヲ張り駛行ノ勢アリ則千六百十九年一月
一日相迎接シテ一戦スルノ後共ニ相分レヤン
ボーテルスゾーキン氏ハアムボイナニ向
ヒ英人ハヤカトラニ向テ上ニ記スルノ七船ト
戦フ故ニ蘭人ハ水陸共ニ敵ヲ受タルナリ然ル

ニ瓜哇人四千ヲ引テ。バンタムヨリ来リ助ク。
蘭人則チ之ヲシテ今成功セル第四地ノ周圍ニ
在テ防禦セシム。ビートルファンデンブルーク氏
ハ主宰クーン氏ノ命ニテ之ヲ指揮タリ。則チ四
ヶ所ノ防禦所ニ新旗ヲ掲ケ大ニ市中ヲ打ツ。此
事大驚駭ヲ起セリ。是ニ於テヤカトラ王ウエージ
ユルクラマ氏講和ヲ請フ。若シ蘭人八千レアー
レンヲ捧ケハ戦ヲ止ムヘシ。ラマ使節ファンデン
ブルークニ口約セハ完全ヲ得ヘシト。抑モ瓜哇
人ノ詐欺ハ屢驗スル所ナレハ其請願スル所或

ハ困難ニ及フヘキヲ察セサルニ非サレ。尚之
ニ赴クヘキヲ決セリ。既ニノ至ルニ忽チ残酷ニ
之ヲ捕ヒ請フ所ヲ肯ハサレハ則チ頸ヲ刎ント
ス。強テ城ヲ渡サントヲ請フ。而シテ脅迫スルニ即
死ヲ以テス。之カ為ニ頸固ニ索ヲ纏ヒ。蘭砲ノ下
ニ在ラシメ。屢暴威ヲ示シ。為ニ之ヲ引テ宮中ニ
入ル。
又英ノ指揮官トマスダール氏。矢書ヲ城内ニ寄
ス。其文ニ曰ク。直チニ百物ヲ附共セハ其血ヲ注
キ。夕ルヲモ無罪ト看做スヘシ。マウリチユス家

屋ニ向テ十六門ノ砲ヲ備ヘタリ。遲疑セス船隊
ヨリ陸ニ向テ多敷ノ砲ヲ放フヘシト。次日弟ニ
書ヲ寄ス。約スル所アリ曰ク。英人ニ使役セラル
ヲ望マサル者ハ二月内ニ退去スヘシ。此約ヲ守
テサルアラハ直チニ大砲ヲ放テ百物ヲ潰崩
スヘシト。

③城内ニハ彈藥匱乏シ。強打セハ一日ヲ支エス。英
人ニハ爪哇人ノ助アリ。且適宜ノ船隊ヲ備フ。城
内ノ人ハ不眠ト勞働トニ由テ衆皆疲ル。又ヒウエ
ホイスマウリケウス銃孔ヲ塞クニ足ル一キ

土ヲ存セス。且何奈思慮スルモ。四月前ニ主宰ク
トシ氏ヲ救フヘキノ策ナシ。困難亦極ル。止ムヲ
得ス。英人ノ請ニ任セントス。然ル片ハ城ト兵器
トヲ渡シ。又ウエージュールクマニ商品貨賤ヲ興フヘ
キナリ。而シテ英人ヨリハ蘭人ニ大砲二門。小銃五
十挺。彈藥一箱ヲ備フル。船ニ六ヶ月用科ノ食品
ヲ附シ。諸品請取渡濟ノハ直チニ出帆スルヲ得
ヘキナリ。

然リト虽既ニ此極ニ至リ。將ニ城ヲ引渡サント
スルニ當テ一顛覆アリテ大ニ全形ノ面目ヲ一

轉セリ。一賈人コルネリスホウトブラケン。バンタムセパン
ガラニニ航セントスルニ方テ。捕人フハンデンブル
ク氏ニ接話スルヲ得タリ。捕人彼ニ請テ曰クク
ン。氏ノ来ルマテ。願クハバンガラニニ捕ハレ
トバンガラニ此企ヲ聽キ。迅速ニ二千ヲ率テ
ドムマングニ出帆シ。ラマ。英人及蘭人ノ間ニ周
旋シ。ドムマングンハバンガラニスノ書ヲラマ
ニ寄ス。其之ヲ讀ムニ方テ。一刃ヲ抜キ之ヲ王ノ
胸前ニ當テ曰ク。汝。汝ノ富ヲ興フルヤ。或ハ一死

人トナルヲ求ムルヤト。王驚怖シテドムマング
ニ告別シ。其婦及長子ヲ携テ。追放セラレ。田舎ニ
赴ケリ。後更ニ零落シテ。一貧人トナリ。海濱ニ在
テ魚ヲ漁セリ。
英人大ニ之ヲ驚視シ。バンタムセルハ城ノ周圍ニ
テ打タルフハンデンブルク氏ハバンタムニ退
キ。英人ハ大ニ其望ヲ失ス。籠城者。愈勇氣ヲ勵マ
シ。終ニ之ヲ保存維持スルヲ得タリ。フハンデン
ブルク。之ヲ伯帶比亞ト名ケ。大書シテ門ニ刻
セリ。然ルニ三月二十五日。クートン氏十七艘ノ船

ヲ舩シテモリユシセ島ヲ役シテ伯帯比亞ニ至
リタルニ此城ニ命名スルハ未夕知ラサル所ナ
ルヲ以テ之ヲ削除セシム翌日兵卒十二人ト舟
子トヲ上陸セシメタルニ其二人ヤカトラニテ
踪跡ヲ失ス家屋又堤壁ヲ探索シテ土ニ至ルマ
テ遺ス所ナシ此ノ如クスルノ後バンタムニ赴
キバンゲラニ就キ指揮官ファンデンブルーク
及ナセ人ノ捕人ヲズワルテレノウ一船ヨリ出
セリバンゲラニハ之ヲ喜ハスト虽脅迫セラル
ヲ以テ上ニ記スル船ノ奮端舟ト共ニ六十三人

ヲ送り翌日更ニ他ヲ送レリファンデンブルーク
氏亦此内ニ在リ然レ氏英人ハクーン氏到着ノ
報ヲ得テ井擣ヨリ大砲ヲ放テ出帆シ十八船ヲ
引テシユング街ヲ經テ隠レリ

英蘭講和

三

六月九日英ト荷蘭東印土商會トノ間ニ和ヲ講
シ再末愈堅固トナリ終ニ抜群ノ伯帯比亞城ト
ナレリ此新築ハ爪哇王ハ己ノ所領地内トスル
ヲ以テ喜ハス爪哇ニ蘭人ノ住居スルヲ大ニ恨
メリ殊ニ支那人日本人薩門答刺人シユカダ
ネン暹羅人及他人ヨリ稅ヲ収ムレハナリ

千六
寛永

百二十九年。彼一萬五千ノ兵ヲ引テ。伯帶比亞ニ
六^年。城ノ四方ヨリ砲ヲ連撃止マス。大砲石橋障ヲ
連放シテ。堤ヲ壞リ。壁ヲ破リテ。直チニ進テ人ヲ
殺戮スル。日々多数ニ亘ル。防拒頗ル死力ヲ盡
ス。屍體ハ川ニ投シ。且ツ河水ハ扱ニテ流テ。遠ル
ヲ以テ。溺屍堆積シ。有毒ノ臭氣ヲ放チ。河水飲ム
ヲ得ス。故ニ深井ヲ掘テ。伯帶比亞人ハ。僅カニ之
ヲ飲用ニ供ス。此籠城中。最モ驚クヘキハ。此街ノ
最末端ニアル。マダタレトンスレドイトニ。瓜哇
人侵入シタルナリ。敵ハ四方ヨリ進撃シ。全丘上

ニ登リ。我兵之ヲ守ル者。僅カニ十六人。彈藥。彈丸
忽チ匱乏スルヲ以テ。レドイトノ尾。及石ヲ以テ
投棄シテ。久時敵ヲ拒ケリ。是亦缺乏スルニ及テ
圓中ノ人糞ヲ取テ投スルニ至レリ。然レモ能ク
之ヲ保持シ。瓜哇人復タ敢テ進マス。終ニ十六人
ヲシテ。阿蘭人猛勇耐忍ノ氣象ヲ現ハサシメリ。
是ニ於テ彼輩退散シ。其土言ヲ以テ曰ク。オセイ
タングオラングホルラダデハカライサムタイ。蓋シ
汝輩阿蘭人ハ。魔ナリ。糞ヲ以テ戦フトノ意ナリ。
瓜哇人勇氣弛ミ。戦鬪勝利ナキヲ察シ十一月一

日。兵士ニ命シテ三ヶ所ニ放火セシム。籠城人ハ其禦ク可ラサルヲ知り。潜伏シテ天明ヲ待ツノミ。翌日ヤコブスベキス氏ハ一二ノ輕兵。及騎兵ヲ出テ。外出シテ。軍狀ヲ探偵セシメタルニ。其視ル所ニテハ。敵兵退散シ。街上ニ屍體八百以上。縦横セリ。或ハ斷頭ナルアリ。或ハ刺貫セルアリ。三日内ニ惡臭ヲ放テ。近接ス可ラズ。是殺戮ノ止ミタル所以ナリ。帝ハ前年ニ於テ。今回ハ第二戦ナリ。一大官吏ヲシテ。適宜ノ軍勢ヲ。伯帶比亞ニ置クヘキヲ適當トセリ。然ルニ其人夫ニ抗拒ナル

ヲ以テ。頭ヲ刎タリ。ブリンスフハンマジユラハ。此島ハ瓦哇ヲ距ル大畧半里。海峡ニアリ。前ノ執政ヲ諛諂シテ。自ラ大ニ誉ヲ得タリ。彼此軍勢ヲ得テ合テ二萬ノ兵ヲ率ヒ大ニ伯帶比亞ニ事ヲ為サントシ。或ハ成テサレハ。敢テ生還セストス。此言帝聽ニ達ス。則チ彼ヲマジユラヨリ招キ新軍隊ノ主宰ヲ命セリ。然レト別ニ執政アリ。則前年伯帶比亞ヲ主宰セシ人ナリ。此人穩和ニ人望アリ。軍卒ノ敬服スル所ナリ。然レト事不都合トナルヲ以テ。瓦哇人ハ事ノ成ラサルヲ以テ退軍

ヲ勸ム。執政ハマジユラブリンスヲ詰テ曰ク。汝ノ曾テ言フ所ニ背カサルヘク。伯帯比亞ヨリ生還セサルヘク。則チ言行異ナラサルヘシト。全軍マジユラヲ回ミ。之ヲ殺セリ。以テ八百人ノ靈ヲ祭ル。

③自來伯帯比亞平穩此平穩中於此盛昌ヲ為セリ。實ニ東印土諸市中ノ一繁華地トナレリ。此地ヨリ千六百四十九年。七月二十八日ニ上ニ記スルカ慶安二年。如ク。日本將軍ヘノ使節ブロクホヒウス氏出帆セリ。則蘓門答刺ノ角ニアルリユカバラ街及バ

ンカ島ニ向フ。八日ノ後ピユロチモンヲ右側ニ見ル。是慰樂スヘキ一島ナリ。樹木多キ山アリ。安全ナル谷アリ。清鮮ナル水アリ。海上ニ高く出テ。且大ナリ。北東角ニ小島アリ。之トチモントノ間ニ自在ナル通路アリ。チモンニ着岸スルニ便ナリ。茲ニハ野生ノベトル有名ナリ。抑モ印土人ハ男女共ニ日々毎朝食後。又毎夜。又外出スルニハ。此根ヲ咬マサル者ナシ。然レモ其根苦味ナルカ。故ニ之ニアレテ。或ハ石灰ヲ和シ。或ハカルビユルデビユルネオアロイホウト麝香。或ハ他ノ

香料ヲ配ス。蓋シ謂ラクベトゲルハ氣息ヲ佳香
ナラシメ。齒銀ヲ固定シ。胃ノ消化ヲ進ムト。但シ
君長ノ前ニハ之ヲ咬ムヲ不敬ナリトシ。好テ大
ニ胡椒ヲ用フ。又ホワブノ法ニ倣フテ。火ヲ焚ク
トアリ。或ハ全熟セル金色葉ヲ好ムアリ。或ハ枯
葉ヲ愛スルアリ。之ヲ咬メハ其始津唾血。紅色ト
ナル。之ヲ咯出ス。然レト第ニ回ヨリハ之ヲ嚥下
スルナリ。若シ之ヲ多取スルニ非サレハ其地零
落ス。一キナリ。氏哇人。ビユルチモンヨリ。滿舟ノ
一トテルヲ家ニ携ヒ来ル。海岸ニテ販賣盛ナリ。

陸地ニテ頗ル高價ナリ。

④ 船隊ハ海路ヲ進行シテ。十二日ビユロコンドル
ヲ見ル。一小島ナリ。之ヨリビユロセシルゲテ
ラヲ過ク。東方海岸ニアルピユロセシルゲメ
ルト混セサル為ニ斯ク名クルナリ。何トナレハ
セシルゲテラハ低沙地ナリ。東埔塞ノ陸ニ在
テ。海峡ニ突出スルナリ。屢日小人。葡萄牙人。交趾
人。及味味人ノ侵ス所ナリ。東埔塞王ハ宮内ニ住
ス。水廠ヲ備フ。蓋シ十六象ヲ畜フ。大砲二十四門
アリ。以テ卧亞及北邊ノ防禦ト為ス。其大砲ニハ

オキナ
トニムネス
カバンデル

青色画彩ヲ附シ。彈丸ハ黒漆ニテ塗ル。其執政ヲ
オキナト稱ス。衆人群集中ニ出ルニ金袋ヲ携フ。
之ニハ三個ノ金箱ヲ包ム。内ニカルダモム。他ノ
香料。及一ノ秤ヲ納ル。但シボナングヲ製スル為
ニス。衆人王ヲ圍遠スルニ半月状ニ群坐ス。其背
後ニトニムネスアリ。銀袋ヲ携フ。秃頂ノ猿。王ノ
近傍ニ在リ。木造ニシテ漆塗セル柱上ニバゴトテ
アリ。金彩ニテ粧飾ス。床ニハ筵ヲ敷ク。堂上ニ三
大三小像アリ。使節謁見スル時ニオキナノ下ニ
坐ス。王ヲ距ルニ二十四歩ナリ。書牘ハ譯官之ヲ讀

テカバンデルニ告ク。カバンデル之ヲオキナニ
報ス。オキナ之ヲ執テ頭上ニ捧ケテ。王ニ呈ス。日
本人本國ヨリ追放セラレテ東埔塞ニ土着スル
者八十餘家アリ。亦王ニ謁ス。蓋シ曾テ王子。其父
ノ位ヲ奪ハントシタル時ニ効アリタレハナリ。
其後船隊ハシヤムハラ過キ。第四日ニサントヨ
ハンデロキスニ達ス。一高山ナリ。其上ニ夫タル
丘アリ。月状ナリ。是ニ於テ八月十五日ト十六日
トノ間ニ於テ。夜使節ブロクホヒウス氏死セリ。
其體ハ直チニ拔ル。撒謨ヲ絶シ。内臟ハ三重ノ擲

亞瑪港

ニ納メ船外ニ投セリ。而シテ船隊ハビユロカムビ
ール。及カリオヲ過キ。終ニ安南島及瑪港ヲ見ル。
此四日間多ク澳舟ヲ見ル。

⑤瑪港又マワカオハ一小島ナリ。北緯二十度ニア
リ。支那ニ接スルニ細キ海峡ヲ以テス。此峡ニ石
門アリ。決シテ葡萄牙人ヲ通過セシメス。輸出入
ノ貨物共ニ稅ヲ支那ニ納ム。廣東ノマンドレ
ンヌ。曾テ葡萄牙人ヲ邊鄙ナルハンベオアオニ
於テ降伏セシメ。瑪港ニ一市ヲ開クヲ許セリ。
則チ堅固ナル壁ニテ圍擁ス。三角状ノ位置ナル

三山上ニ三城ヲ築ケリ。其最ナル者ハサントハ
ウロナリ。三十六磅ノ大砲三十四門ヲ備フ。以テ
主長者ノ住所ヲ警護ス。第二城ハノストラセイ
クノラデラベンナデフランシアナリ。而シテ第三
城ハノストラセイグノラデキユエルナリ。十字
教師住ス。日本人マニルラ人。或ハ他所ヨリ入港
スル船アレハ。此山上ニテ鐘ヲ鳴ラシ。市中ニ之
ヲ報シ。且警メシム。四個ノ臺場アリ。一ハ陸ニ三
ハ海ニ備フ。其最ナル者ハサントヤゴデラハル
ラト称ス。蓋シ構造良好ニシ。且軍卒住居シ。一個

ノ市街ヲ爲ストノ意ニ出ルナリ。二門ノ大砲ヲ
備ヒ。彈藥十分ナルヲ以テ。防護頗ル堅固ナリ。諸
船舶必ラス此近邊ヲ通過セサルヲ得ス。此主宰
ハ王ノ命スル所ニノ。自ラ知事ト称スルヲ得ス。
第二ヶ所ハノストラセイグノラデルボンバツト
ニテ。南西ニアリ。市外ニ一ノ彈藥製車アリ。是ヨ
リ半月状ノ堤ヲ築キ。外面ニ壁アリ。以テフラン
シスコニ達ス。此兩所ノ間ニ家屋アリ。海岸ハエ
作場ニ供ス。第三ヶ所ハフランシスコト称ス。根
脚ハ扁平ナリ。四十八磅ノ大砲ヲ備フ。其射カオ

スセアン島ニ達スヘシ之ヨリ壁ヲ造リ。陸ニ達
シ。第四ヶ所則サントヨハニニ連ル。茲ニハ陸門
ラサロアリ。是ヨリ山ニ連ナリ。基督寺ニ詣スヘ
シ。壯大ナル建築ナリ。瑪港ノ内ニイエソイトン
ドミニカトネン。フランシスコトネン。アウギユ
スチニアトネン。及カラシトネン。アリ。各一寺院
ヲ有ス。三大寺アリ。粧饒頗ル盛ナリ。其僧ハ臥亞
ノアールスビスコツブニ属ス。
瑪港ノ交易ハ諸國ノ船舶來港スル所ナリ。則チ
東京。キユイナム。シヤム。バ。東埔塞。マカツセル。ソ

ロル子モルマニルラスナリ。往時ハ日本人モ来
レリ。皆瑪港執政ノ許可ヲ得ルニ非サレハ決シ
テ入港スルヲ得ス。貿易品ノ大ナル者ハ金銀。白
絹。金色羅紗。ロベーン。真珠。麝香。水銀。スヒリアウテル
陶器。土茯苓。大黃。及各種ノ製作品ナリ。
瑪港ヲ出帆シ。復夕之ヲ見サルニ至テ。八月四日
恐ルヘキ暴風ニ遇フ。雷電アリ。其朝舟子皆曰ク。
彗星アリ。長サニガラセン。其状蛇ノ如シ。風雨
止マサル。三日碇泊スルノ暇ナシ。雷霈甚クシ
キヲ以テ。唯之ヲ防クヲ勉ムルノミ。既ニノ僅カ

ニ小帆ヲ掛クルヲ得タリ。背後ニ漂流スル。九
里。又霧雨ニ遇フ。舟子ビートルドウウエンズゾ
ン。外槓及大帆ヲ失セリ。指令官相會シテ。唯之ヲ
保存スルノ策ヲ議スルノミ。而ノ風止ミ。天氣之
ヲ許サハビスカドレス。諸島ニ達セン。一ヲ企望
ス。然ルニ夜中帆ヲ括ル為ニ辛苦ス。翌朝ニ至テ
風雨稍減ス。故ニ艫帆ヲ揚ケ。遙カニ南方ニ出ワ
北緯二十二度ニ至ル。日午風再々強吹。東来ミテ
止マス。帆ヲ吹飛セリ。衆皆遁ル可ラサルヲ決ス。
夜ニ入風愈劇シ。若シ夜半ニ及テ止マサレハ死

臺灣島

眼前ニ在リ。此時一帆ヲ揚テ東行シタルニ。支那
陸地魁山ヲ距ル一里許ニシテ。終ニ北緯二十二
度ニ至リ。臺灣ニ近接スルヲ得タリ。

此島ハ支那人ハツカニテト稱ス。東北ヨリ南西
ニ亘ル三十二里ニ過ク。周圍總計百三十里ナリ。
高山ニ富ミ。鹿。山羊。兔。飛兔。野猪。野鷄。雁。鳩。及リ。ユ
ハネ。トアリ。是極テ美味ナル。更ニ沙糖。生姜。肉桂。
豆蔻。及他ノ食料ヲ產物トス。又臺灣ニハ村落。及
人員多シ。酋長致人アリ。常ニ黨ヲ為シテ相争ノ
甲村。乙村。戰鬪休息ナシ。村落ノ最ナル者ハシン

カン。マ。ン。ダ。ウ。ソ。ウ。ラ。レ。グ。バ。ツ。ケ。ル。カ。ン。グ。タ。フ。カ
ン。チ。ヒ。ユ。リ。ユ。カ。ン。テ。オ。バ。ン。及。テ。ヒ。ユ。ラ。ン。グ。ナ
リ。此テヒユラ。ン。グ。ハ。セ。ー。ラ。ン。ジ。ア。城。アル。山。中
ニアリ。往時カテオハント稱セリ。相距ル一
日半程アリ。此住人ハ野蠻ナリ。男子ハ極テ强壮ニ
ノ大ナリ。羊鬼ノ如シ。但シカワヘルスノ如クニ
全黒ニハアラス。步行スルニ陰所ヲ蔽ハス。婦人
ハ短袴ニシテ。肥胖ナリ。唯習慣ニテ一日二回市
上ニ出テ。各人ノ為ニ眼ヲ洗フ。其ノ外ハ衣アリ。
皆懇厚親愛ナリ。蘭人食物及飲料ヲ應分ニ與テ

饗應ス。

但シソウランク村ハ。營生法乞丐ノ如シ。穀。貧
利穀。戮ヲ好ム。良田アレハ。必需外ヲ要セス。或ハ
他ヲ掠ムヲ勉メス。耕耘ハ婦人ニ托シ。勞ヲ厭フ。
馬牛ニ缺クヲ以テ。止ムヲ得ス。鋤ヲ用ユ。鋤ヲ以
テ地面ヲ耕シ。稻ヲ植ルニ深キニ過ク。鎌及大
鎌ナキヲ以テ。刀ニ異ナラサル器械ニテ。一穗毎
ニ之ヲ截ル。収獲後之ヲ日乾セス。直チニ屋内
ニ納レ。夜之ヲ火上ニテ乾カスナリ。婦人ハ晴雨
ヲ論セス。日々之ヲ搗テ。其日ノ食料ニ供ス。稻ノ

臺灣紀事

外更ニ他物ヲ播種ス。例之胡蘿蔔。水柑。ビナン。グ
キ。ユ。ア。ク。ク。ラ。ウ。ン。及。ブ。チ。ン。グ。ナ。リ。
臺灣ニハ。印土ノ彼此ノ地ニ於テ。樹木ヨリ釀成
スル如キ酒。及他ノ強液ヲ存セス。然レハ別ニ一
種ノ飲料アリ。其醱酎スルハ。西班牙酒ニ異ナル
ヲナシ。此飲料ヲ製スル法。左ノ如シ。米ヲ蒸シ。煮
テ。搗キ。碎キ。泥トナシ。之ヲ咬ミ。碎キテ。壺内ニ吐
キ。貯ヘテ。其酸性酵母トナルヲ待ツ。既ニノ水ヲ
注キ。米ヲ納レタル大ナル桶ニ貯フ。此ノ如クニ
ノ大抵。二月ヲ經レハ。變スヘキ透明ナル強液ト

ナル。愈日ヲ經レハ愈良トナル。之ヲ保存シテ三
年ニ至ルヘシ。其液上邊ハ清澄ナレ。下邊ハ渾
濁シテ糜ノ如シ。故ニ上澄液ハ飲料トナシ。下濁
物ハ匙ヲ以テ嘗ム。田野ヨリ帰ル後。壺或ハ竹器
ヲ以テ之ヲ飲ミ。且ツ食ス。采ハ多クハ此液ヲ釀
スニ費ヤスナリ。
婦女ハ農事ヲ終レハカムバンス。蕪ノヲ携テ魚
蟹。牡蛎及海老ヲ捕ル。此魚ハ鱗ヲ除カス。腸ヲ出
サス。ノ。鹹水ニ浸ス。故ニ速カニ腐敗シ。多矣ヲ生
ス。是土人ニハ殊ニ美味ナリトスル所ナリ。強壯

ナル男子ハ。懶惰放肆ニ日ヲ消ス。四十歳ヨリ五
十歳ニ至ル間ハ。晝夜其婦ト共ニ一小屋内ニ同
居スルヲ得。祝日ニ非サルヨリハ。村内ニ男子ニ
接スルヲ許サス。男子ノ所業ハ田獵ナリ。

田獵ノ法。數様アリ。或ハ科藤及竹ニテ組ミタル
隙ヲ。森林及小徑ニ設ケ。鹿。猪等ノ通過シテ。之ニ
掛ルヲ待ツ。或ハ平野ニ深ク竹ヲ刺シ。之ヲ彎屈
シ。小板ヲ以テ固ク停止シ。其上ニ廣ク隙ヲ張り。
少シク土ニテ覆フ。鹿或ハ猪。隙ニ達スレハ。撥ヲ
放チ。獸ノ頸或ハ足ニ纏ハルナリ。則チ走り近テ

之ヲ捕フナリ。

更ニ獵ノ一法アリ。アサカトイフ

類カノヲ用フ。或ハ一

村ヲ傾テ從事スルアリ。或ハ二人同時ニ行フ

ヲアリ。其人ヲ分配シテ一ハ一里一ハ一里半ニ

在テ回繞ス各三本ノ銘ヲ持テ犬ヲ野ニ放テ次

第ニ周回ヨリ進ミ寄ル。獸既ニ一銘ニ中レハ復

夕遁ル可ラス。此銘ハ竹ニテ製ス。長サ人長ニ同

シ。尖端ニ鍔ヲ具テ四面ノ彈鈎アリ。一長繩ヲ附

シ。之ニ鈴ヲ繫ク。獸ノ雜草間ニアルモ其音ヲ聞

テ所在ヲ知ルヘシ。

或ハ矢ヲ用テ殊ニ鹿ヲ多シトス。其肉ハ支那人

ニ興ヘテ衣服ト交換ス。但シ獲ル所ノ鹿肉僅カ

ニ一齋ヲ食シ内臓ハ鹹浸シ貯テ鹿ハ其幼兎ニ

係ラス。皆直チニ殺シテ皮及毛ヲ保存シ。他用ニ

供ス。

又男子所業ノ第一件ハ鬪争ナリ。其法左ノ如シ。

前以テ甲村ヨリ乙村ニ報告シ。是ニ於テ二十人

或ハ三十人集合シ。銘ヲ以テ敵村ニ侵入シ。潜伏

シテ夜ニ入ルヲ待テ暗ニ乘シテ野ニ出テ敵家

ニ向テ之ヲ索ム。既ニ之ヲ得レハ則チ其頭ヲ

断ッ。或ハ更ニ手及足ヲ断ッ。或ハ全身ヲ屠リ。各
人其一部ヲ取り。勇猛ノ徵トナシ誇ルヲアリ。然
レ此原野ニソ。一人ヲ見サルハ其村ニ於テ一
家ヲ襲フテ之ヲ破壊シ。一人ヲモ許サス。敵人ノ
手足及頭ヲ奪ヒ。或ハ頭髮ノミヲ取ルヲアリ。盖
シ敵村ニテ之ヲ防クノ準備アルカ。或ハ攻者ノ
力足ラサルハ上ノ如クスルヲアリ。或ハ却テ
降伏スルヲアリ。或ハ敵ノ鎧ヲ奪ヒ取り。勇ヲ示
スヲアリ。敵ニ對シテ死スル者ナク。又怪我スル
者モナキハ原野ヲ退散スルナリ。

其武器ハ大ナル楯ナリ。全身ヲ匿スニ足ル。矢及
廣キ斧ナリ。二三ヶ村相合シテ一二村ニ抗スル
ト屢之アリ。但シ固ヨリ指令者アルニ非ス。唯多
頭ヲ所持スル者之ヲ預カリ聞クノミ。
其欺計驚ク一キアリ。屢其村ノ甲端ニ於テ。戦ヲ
挑ミ。秘カニ乙端ヨリ侵入スルヲアリ。此時敵人
ヲ其住所ヨリ驅逐シ。之ヲ遮キル者アレハ則チ
之ヲ殺ス。一夜间ニ一村ヲ蹂躪スルト屢之アリ。
一家ヲ殺戮スルノ後。迂路ヨリ退散ス。但シ前以
テ大畧一尺許ノ葎ヲ斜ニ土中ニ刺シ固メ。以テ

道路ヲ示スノ標ト為スナリ。勝者既ニ敵首ヲ得
レハ之ヲ背ニ荷フテ歸村ス。而シテ唱歌シテ神力
呵護以テ其志ヲ得タルヲ鳴謝ス。殊ニ佳酒ヲ以
テ厚ク饗應シ。衆人ヲ慰勞ス。
十四家毎ニ一寺院ヲ設ク。則チ先ツ敵首ヲ寺ニ
携ヘ之ヲ壺中ニ煮テ肉ノ剥離スルニ至ル。次ニ
太陽ニ曝シ乾カシ。酒ヲ注ク。十四日間連日客ヲ
招キ豚ヲ屠リ以テ神力ヲ感謝ス。此鬪騷ハ其人
ニ於テハ黄金及寶石ヨリハ更ニ貴重トスル所
ナリ。若シ火災或ハ暴人等非常ノ事アルニ方テ

第一ニ之ヲ携ヒ去ルナリ。

六未夕一頭ヲ所持セサル村ハ常ニ他村ノ下風ニ
アリ。然レモ首箇十二人アリ。共ニ大畧四十歳ニ
年毎ニ新撰ス。其職終ル者ハ頭髮ヲ留メテ前額
兩側ノ毛ヲ拔去ス。是往時ノ首箇タリシヲ標ス
ルナリ。其威權頗ル盛ナリ。大事アレハ村人寺院
ニ集會シ。各人其持論ヲ吐キ。順次議ヲ建ツ。而シ
テ議スル所ヲ述テ以テ首箇ノ判決ヲ仰ク。此老首
箇亦他人着用スルノ衣服ヲ奪ヒ取り。三月之ヲ
用フルヲ得ルノ權アリ。神ニ雨ヲ祈ルハ是ナリ。

大抵之ヲ罰スルハ婦人ニアリ其祝日ニ於テ最
モ盛飾セシ者ニ於テス首箇ハ強液砂糖ビータ
シグ。不^詳及脂肪ヲ併セ食ス但シ糶ハ羊糞ニ収獲
ス此ノ如クセサレハ鹿猪ノ其田畝ヲ損害ス一
キヲ恐ルナリ

各人盜賊殺戮及姦淫ハ報讐スルノ念アリ其長
上ナルモ之ヲ保護スルノ朋友アルモ敢テ顧ミ
ルナシ或ハ豚或ハ鹿野ニ於テノ事件アルモ
亦然リ固ヨリ貴賤上下ノ別アルニ非サレ氏自
ラ相親睦シ幼者ハ道ヲ老者ニ譲リ老者他ニ命

シテ數里外ニ使役スルモ幼者之ヲ辭スルヲ得
ス加之老人集會席ニテハ少者一言ヲ發スルヲ
能ハス

男子二十一歳以内ニテハ婚娶ヲ許サス十七歳
マテハ長髪ヲ保存ス結婚ノ状左ノ如シ婿ヨリ
其母或ハ血族ノ女友ヲ婦ノ家ニ遣リ適女ニ寄
贈スルニ左ノ品々ヲ以テス例之上衣八枚下衣
八枚竹ニテ製スル指環四百箇金屬或ハ白鹿角
ニテ製スル指環十二箇赤色ノ犬毛ニテ績タル
絲ヲ附ス粗布ニテ製スル帶五筋犬毛ニテ製セ

ル帽十二支。那衣服三十枚。又犬毛ニテ製セル大
ナル髮粧具之ヲアヤマミアングト称ス。鹿皮枕五對。
是最上等ノ進物ナリ。他ハ其貧富ニ應シテ。差等
アリ。寄贈スル所ノ物品ヲ返附セサレハ。是縁談
整頓セルナリ。昏即直ニ同衾スルモ妨ナシ。
此ノ如ク結婚スルモ。男子ハ婦人ノ家ニ住居ス
ルヲナシ。各々別居ス。夜中ノミ。男子婦人ノ家ニ
来リ宿ス。然レ炬火。或ハ燭ニ近接スルヲ許サス。
無言ニテ蓐ニ入ルナリ。煙草。或ハ他品ヲ欲スル
モ。敢テ之ヲ求ムルヲ得ス。唯警咳以テ其意ヲ

○唯硬キ毛皮アリ。
○赤ノ上ニ敷クノミ。
○或ハ竹製寢臺
アルアリ。

示スノミ。其音ノ容ニ應シテ。婦則チ彼此ノ品ヲ
興フルナリ。家事ヲ終フル後。婦ハ蓐ニ就クナリ。
休息所ニハ枕モナク。毛蒲團モナク。卧具モナシ。
翌朝未明ニ。男ハ無言ニテ出テ去ル。婦又自家ノ
田畝ニ従事スル半部ナリ。其半部ハ。男子来リ助
ク。兩人各々一半ニ従事ス。晝間ハ男子。其婦人ニ
對シテ談話スルヲナシ。必ラズ婦ノ許可ヲ待ツ。
子ハ二十三歳マテハ。母ノ膝下ニテ養育ス。此時
ニ及テ始テ父ニ伴テ其家ニ至ル。
婦三十七歳以内ニ妊孕スレハ。残酷ニ胎児ヲ殺

ス。則チ婦人卧蓐ニ横卧ス。招請サレタル尼僧ハ
妊婦ノ腹ヲ或ハ壓シ。或ハ踏ミ墮胎セシムルナ
リ。其辛苦實ニ恐ルヘル。ゴールギウスカニジウス氏ハ
エウアングリウムス氏ニ隨テ寛永五年十八年ニ臺灣
ニ到レリ。其話ニ曰ク。余カ知ル所ノ臺灣ノ一婦
人上ニ記スル恐ルヘキ法ニテ墮胎セシト十六
回ナリ。第十七回ノ妊娠ニ及テ始テ出産スルヲ
得タリ。蓋シ子ヲ拳ケルモ可耻ナキ年齢ニ達シ
タレハナリ。

元 男子四十歳ニ至レハ。我カ屋ヲ出テ。婦屋ニ同伴

ス。多分ハ共ニ原野ヲ小舎ニ留止ス。或ハ少許ノ
不和熟ノ為ニ離別スルトアリ。此時ニハ一男毎
月一新婦ヲ娶ルナリ。若シ夫レ確切ナル事由ア
リテ離縁スルニ至ルハ。往日寄贈スル所ノ結
納品ヲ取戻スナリ。此ノ如クセサルハ。尚其婦ヲ保
持スルナリ。或ハ一男ニゾニ婦ニ婚スルアリ。但
シ是婦ノ可耻所ナレバ。娼妓。姦淫ノ所業。尚流行
スルナリ。
○ 臺灣人家屋ハ。印土ニテハ決シテ見及ハサル精
巧美饒アリ。小丘上ニ築ク。高サ人長ニ同シ。下天
○ 皆嫁セザル者ハ。村内
○ 別區ニ住居ス。西家
○ 二一寺院ヲ設ク。
○ 虎内痲臺アリテ。
○ 男子ノ奉テ臥スニ
○ 供ス。美。上ニ記スル

如手婦人ニ伴テ住
スルヲ得ヘキ年終
ニ至ルマテ此ノ如ク
ルナリ

井ハ竹ニテ造ル。四戸アリ。四方ヨリ風ヲ入ル。一
シ。大家ニハ出入口亦多シ。内外鎔ルニ鹿。及豚頭
ヲ以テス。支那衣服。及鹿皮アリ。家財ハ鉆。楯。劍。弓
矢。ホウウエール。土ヲ碎ク為ニ用フル。德利。控鉢。竹製
ノ桶。及土壺ナリ。

就中敵ノ毛髮。骨骸。及髑髏ヲ以テ。最上ノ鎔トス。
一般ノ祭日ニハ。家族皆各自ノ寺院ニ詣シ。舞躍
飲食スルノ外。他ニ祝日ナシ。最貴ノ衣服ハ。赤染
セル犬毛ニテ製スルナリ。

屍體ハ二日間割行ニテ製シタル臺上ニ手足ヲ

緊縛ス。此臺ニ火氣ヲ導キ屍體ヲ徐々ニ乾カサ
シム。此時集會セル衆人豚肉ヲ食シ。強液ヲ飲ミ
酪酏昏睡スルニ至ル。他人之ヲ醒覺スレハ。則チ
屍室ニ入り。水胴ノ鼓ヲ敲ク。此音ニ乘シテ。婦人
ハ一壺ノ強液ヲ撒布ス。是ニ於テ屍室ニ在テ舞
躍ヲ始ム。其狀驚クニ堪タリ。東洋ノ櫃ニ異ナリ
サル大ナル控鉢ヲ覆シテ。屍體ヲ掩フ。而シテ衆婦
ニ列ヲ為シテ。背向シ。優シク手足ヲ動カシ。異音
ヲ發ス。既ニシテ疲勞スレハ。他人之ニ代ル。九日ニ
ノ屍體乾燥ス。此時臭氣堪可ラス。之ヲ洗淨スル

一。九回ニシテ。筵ニテ卷キ。初回ヨリハ更ニ高キ臺
ニ移シ。周圍ニ衣服ヲ懸ケ。天幕状ナラシム。此ノ
如クニシテ屍ヲ存スルヲ三年。乾燥シテ骨骸トナ
ル。是ニ於テ屋内ノ墓所ニ葬ル。多貴ノ饗應ヲ設
ク。
病人アル所ニモ亦騷シク回舞ス。殊ニテオバン村
ニ於テス。人アリ大患。及疼痛ヲ訴フル所ハ索ヲ
頸ニ懸ケ。罪人ヲ呵責スルノ状ノ如ク。押シ倒シ。
急速ニ死ニ就カシム。
台灣人ハ書籍ヲ有セス。文字ヲ知ラス。唯宗教ヲ

リテ人々相口授スルノミ。謂ク世界ハ始ナク終
ナシ。魂魄ハ不死ナリト。故ニ死者アル家ニハ一
室ヲ定メテ内ニ一桶ノ水ト。一竹ノ筒ヲ備フ。以
テ之ヲ汲ムニ供ス。魂魄常ニ存スルヲ以テ。其心
ヲ清洗シ。懺悔スルニ足ルトス。又曰ク凡ソ悪事
ヲ爲セシ者ハ死後必ラス罰ヲ蒙ル。又善事ヲ
行ヒシ者ハ必ラス慶賞セラルト。是ニ於テ深キ
墓穴ニ狭キ竹橋ヲ架シ。以テ魂魄ヲ幸福ナル地
ニ導クヘシトス。悪人此橋ヲ通過セシトスレハ
忽チ顛覆シ。其人苦楚ナル沼澤ニ墮リ。而シテ善人

ハ容易ニ之ヲ通過スルナリ。

④其惡業中ニ異スルハ妄語。不信心。又一定時ニ至ルマテ裸ニテ在ラサル。素スルニ蠶人。通習。裸體ニテ居ル。一キヲ緋布ノ衣服ヲ着スル。三十六歳前ニ子ヲ奉クル。其時ニ牲ヲ献セサル。鳥聲ニ注意セス。他行シ。或ハ事ヲ營ム。又他人ヲ欺キ。物品ヲ盗ミ。人ヲ縊殺シ。及誓ヲ破ル等。皆許サレル所ナリ。誓約スルニハ共ニ藁ヲ破碎スルヲ以テス。公然トシ酪酏シ。私カニ娼妓ヲ買ヒ。又離縁スルハ自

意ニ任ヌ所ナリ。旅行スルヲ知ラス。各様ノ神ヲ信ス。其最ナル者ハタマキサンハクナリ。南方ニアリ。其配女タキサンクバダハ東方ニアリ。夫レ東方ニ雷鳴アルハタキサンクバダ。其男ニ向テ何故ニ雨ヲ下サレルヤヲ呵責スルナリ。男其爭論ヲ領承スレハ則チ雨ヲ雲間ヨリ下スナリ。又北方ニ一神アリサリアヒングト名ク。其意暴惡ナリ。何トナレハタマキサンハクハ人身ヲ美麗ナラシメントスルニ此神ハ痘瘡。尙倭。及他ノ醜容ヲ附スルナリ。故ニ之ニ祈テ此害ヲ免カレントヲ求ム。鬪爭

アルニ方テハクラヒユ。及夕バリアニ共ニ軍神ヲ祈ル。
イニブスノ類巫女ト称スル婦人アリ。台湾人ノ遍ク
信スル所ナリ。則チニ法アリ。一ハ神ヲ招クナリ。
一ハ牲ヲ献スルナリ。イニブスハ鹿及豚頭。蒸タル
米。ヒナング。及強液ヲ捧ク。此ノ如キ諸品ヲ捧呈ス
ルノ後イニブス二人。群人中ヨリ起チ拳リ。強聲ヲ
放チ。神名ヲ呼ヒ。酒盞ニ注視シ。失氣シテ昏倒ス。
既ニノ醒覺スレハ。煩惱戰慄ス。是神魂方ニ身ニ
憑ルノ徴ナリ。此ノ如キニ至ルニハ。通例一時ヲ
費ス。圍繞スル所ノ衆人皆歩ヲ進ム。次テイニブス

二人ハ屋脊ニ上リ。共ニ其角ニ立ツ。而ノ久シク
神ニ説話ス。是ニ於テ服スル所ノ衣ヲ脱シ。陰部
ヲ曝露シテ。神ニ示シ。且手ニテ之ヲ敲キ。水ニテ
一身ヲ洗フ。而ノ周圍ニアル婦人ニ接近シ。各々
吸口スル。強ク破裂スルニ至ル。
此ノ如キ公然タル信心ノ外。各人屋内ニテ行フ
所アリ。此イニブスハ晴雨ヲ前知シ。困厄災難ヲ除
キ。惡魔ヲ退治ス。之ヲ行フニハ。大聲ヲ放チ。日本
刀ヲ手ニ握リ。氣中ヲ截リ。上ニ記スルカ如ク。魔
ヲ拂ヒ。終ニ身ヲ水ニ投シ。之ヲ吞ム。或ハ供物ヲ

街上ニ置クトアリ。
此ノ如キ野蠻人中。尚耶蘇教ヲ奉スル者多シ。蓋
シ東印土商會。台灣人ノ為ニ貿易安穩ヲ祈ルニ
始マル所ナリ。耶蘇教幸ニ增多ス。何トナレハ灣
人ハ自負尊大ニ。決シテ他ノ下ニ在ルヲ肯セ
ス。尤ヲ辭セス。一心ニ固信スル所アレハナリ。
猶全印土人ノ釋教。或ハ嗎哈派ヲ偏信シテ。耶蘇
教ヲ非毀スルカ如シ。且灣人書籍ナク。又一定ノ
宗教アルトナシ。故ニ連々變化シ。唯イニブスヲ信
スルノミ。是ニ於テ其釋教ノ妄說ヲ脱セシムル

一。復タ容易ナリ。釋教ヲ固信スルノ婦人ノ魅
ル者ヲ説諭スルニ在ルノミ。
二。阿蘭人ハ此地ニ於テシンセオ。及厦門ヨリ來ル
ノ支那船ト貿易スルナリ。貿易スル品物ヲ。或ハ
阿蘭本國ニ送り。或ハ日本ニ送り。或ハ全印土ニ
送ル。厦門ヨリ來ルノ船遲滞スルハ。通例ハ日
本。或ハ伯帶比亞ニ向ハンカ。為ニ直チニ厦門ニ
航スルトアリ。此地ニテハ絹一ピユル。一ピコル
ハ百二十磅ナリ。ニ付十テールナリ。一テールハ
三ギユルテンニ當ル。

臺灣ニハ頗ル多事ナリ。何トナレハ此島ニ於テ。西班牙船。支那。及日本ノ為ニ悩マサレタレハナリ。呂宋人能ク此事ヲ悟リ。寛永三百二十六年ニ臺灣ノ北方ニ上陸シ。速カニケラング城ヲ建築セリ。然レモ是ニ安居スルヲ得サリシ。蓋シ早ク既ニ荷蘭人ヲテオフハンヨリ驅逐スルカ為ニ多船ヲ航セシメントシタレハナリ。然レモ天幸ニノ颶風アルカ故ニ。此企謀ヲ妨ケタリ。後葡人瑪港ニ在テ。此企ヲ行ハントシタレモ。亦意ヲ達スルヲ得サリシト。虽モ臺灣ニテ自由貿易ヲ行ハントスル日本人ノ為ニ容易ナラサル困難ヲ蒙ルレリ。何トナレハ。德秘ナリトハ。虽日本人ハ。阿蘭人ヨリハ早ク是ニ至リシ所ナリトハ。虽モ我臺灣ニゼーランジア城ヲ築キシ以来ハ。高業次第ニ衰頽セリ。是ヲ以テ日本人ハ。之ヲ其執政ニ荷蘭人ヲ諉訴シ。今之ヲ制セサレハ。荷蘭人ケラング城ヲ取り。終ニ容易ニ全臺灣ヲ奪領スルニ至ルヘシト。

千六百六十二年ニ。此島支那領ニ歸セリ。支那ニ寛文二年。一キ暴徒起リ。漸ク蔓延セリ。支那ノ一地ハ。驚クヘキ。

方シユキユアシニ峻山アリ。山賊潜居ス。村落ニ
出テ貸賂ヲ掠奪シ。既ニ各地ヲ畧取セリ。勢ニ
衆シテ次第ニ勇威ヲ逞フシ。大ニ首府シングチ
ユヲ侵掠奪領セリ。但シ久シク此地ヲ保存スル
ヲ得サリシ。是レ支那ノ勇女シユキユエンヨリ
来テ大ニ山賊ヲ敗リ。其營ヲ蹂躪シタレハナリ。
然レ此賊再ヒ勢ヲ張リ。衆ヲ集ム。又キユイセウ
ニ於テ一黨起レリ。則チ二將技相争フ。一アリテ
一將終ニ罪ヲ言渡サルヲ以テ叛シ去テキユイ
シユノ賊黨ニ投シ。彼罪ヲ言渡シタル人ヲ殺シ。

而ノ亞王チユタングノ兵ヲ驅逐セリ。既ニノ亞
王ノ兵ハ再ヒ勇ヲ震フテ勝ヲ得。前敗ノ災ヲ償
フニ山賊ヨリ二倍ノ利ヲ得タリ。然リト虽此時
蝗害頗ル盛ニ支那ノ北部七郡ヲ禿蝕シ。隨テ大
饑饉ヲ来シ。又饑饉ヨリシテ盜賊ヲ起シ。群盜相
會シテ先ツ村落ヲ侵シ。漸ク都市ニ及ヒ。又賊黨
ハ隊トナリ。俠勇亦其徒弟ヲ誘テ。此群中ニ入り。
増加シテ軍隊ヲ編成スルニ至レリ。

三 此ノ如クニノ群盜各所ニ進歩シ。全國ヲ横行シ。
貸賂ヲ掠奪スル。山ノ如ク富有王家ニ擬ス。是

ニ於テ各隊長ハ各冠ヲ戴ク。此ノ如ク暴威ヲ張ルヨリ各隊長各自恣放逸相屈セス相争ヒ相戦フテ六人ヲ戮シ今僅カニ二長ノミヲ存ス則チリキユンキユス及カンギーンシユンギユス是ナリ尚互ニ相及目シテ功ヲ争フテ奪地ヲ相領セントス然レト二人共ニ同僚ヲ殺シタルヲ追思シ相戒メ相忍ヒ終ニ議シテリキユンギユスハ南部シエシ及ホナレヲ領シカンギーンシユンギユスハ北部シユキユエシ及ヒユキユアングヲ領シ相侵スナキヲ約ス甲ハシエシヲ掠奪シテ骨ニ至

ル次テ富饒ナルホナンニ移リ首府カイロユングニ住シタレト再ヒ襲ハレテ大ニ敗ル壁破レ四邊餓餓スルノ状詳記スルニ恐ヒス今方ニサマリアサギユンチユス及イエリユサレムノ有名ナル苦辛ヲ臆起スヘシシユングシニウス帝ノ兵勇ヲ鼓シテ城ヲ固ミ千六百四十二年大ニ賊軍ヲ敗レリ抑モカイロユングハ極テ低地ナリヒユアング河ノ南側ニアリ之ヲ距ルト一里半水面常ニ地表ヨリ高シ故ニ堅固ナル石ニテ堤ヲ築キ水害ヲ防クナリシユングシニウス帝

堤ヲ決シテ水ヲリキユエングユスノ營ニ溉カ
シム。此時河水非常ニ高漲ス。其水忽チ田野ヲ浸
シ。城ヲ沉ム。賊軍狼狽避クルニ所ナシ。カイヒユ
ニグ城ノ壁ヲ起ルヲ以テ人畜家屋寺院暫時ニ
流没シ。往時舊帝ノ住所ナリシ者。今一水地ニ變
シ。溺死スル者三十萬人ナリト云フ。
然レ氏其後リキユンギスル各地ヲ押領シ。制令頗
ル好シ。終ニシユングシニウス帝ニ迫リ。北京ニ
於テ宮闈ニテ先ツ其可昏朝ノ女ヲ刺殺シ。次テ
帝ヲ弑セリ。帝ニ三子アリ。長子ハ行ク所ヲ知ラ

ス。二弟ヲ刎頸セリ。
諸事意ノ如キヲ得タリ。唯韃人ヲ防ク為ニレテ
オチユング境界ニ在テ注目スルユサンギユエ
イウスノ之ニ抗セリ。則チ使者ヲ送り。親睦セ
ン。トテ請フユサンギユエイウス之ヲ聽カス。何
トナレハ之ヲ怒ムヲ以テ八萬ノ兵ヲ具スルノ
韃韃王シユングシニウスト心ヲ合セテ賊ヲ討シ
ト欲スレハナリ。但シ賊ハ此謀ニ關セスシテ北
京ヨリ支那大明帝ノ二百八十年間貯蓄スル所
ノ財寶ヲセンシ地方ニ運輸セリ。金銀財寶ヲ四

門ヨリ運輸スルヲ連八日而ノ馬人夫駱駝ヲ以テ運輸スル所ハ唯貴價ナル賤賣ノミナリ。然ルニリキエングシユス自ラ帝位ヲ占ムルノシガレノ道ニ於テ。韓人ノ爲ニ此賤賣ヲ奪領サレタリ。既ニ其富ヲ有スルヲ以テ。北京ヲ押領スルヲ得タリ。更ニ歩ヲ進メテ各地ニ及ヒ。終ニ七妃ノ所生ニテ。南テ六歳ナルシユンシニシユングテウス帝ノ冠ヲ頭上ニ置ケリ。然レヒユサングエウスハ韓帝之ヲ尊テセシメノ王ト爲セリ。蓋シ此人ヲ此地ニ在ラシメテ以

テ支那ヨリ鞭靴ヲ侵スノ機會勿ラシムルナリ。而ノリキエングシユスハ大ニ之ヲ討チ其兵ヲ奪ヒ生サス殺サスナラシメリ。紛亂此ノ如キヲ以テ支那人ハ大明ノ遺胤ヲ索メテ帝ヲラシメントスルノ意アリテ。彼此之ヲ謀ル者アレヒ皆逐ニ志ヲ達スルヲ得ス。且支那全國ノ到ル所悉ク盜賊ノ衢トナル海上亦海賊ヲ免カレシ。シンシリエングト云フ者アリ。外國人ハ之ヲイキエオント云フ其始葡人ノ奴トナリテ。瑪港ニ在リ。後阿蘭人ニ隨テ。臺灣ニ至ル。他ニ使役セラレテ厭

フテ。支那ノ遁亡人ニ謀リ。一隊ノ舟ヲ往還セリ。
次第ニ勢力ヲ得。印土ノ貿易為ニ減退スルニ至
レリ。蓋シ呂宋ノ西班牙人。台灣。及伯帶比亞ノ阿
蘭人。瑪港ノ葡人。及日本人ト貿易スレハナリ。彼
唯支那品ノミヲ輸出シ。而シテ支那ハ歐羅巴品
ヲ輸入シ。後終ニ三千船ヲ領スルニ至レリ。而シテ
常ニ支那ノ帝位ヲ占メントスルノ大志ヲ抱ク。
韃人之ヲ偵知シ。彼ヲ欺キ。之ヲ攀テ。一王トナシ。
ホキーン。及キユアンチエングヲ興フルヲ約シ。
以テ其兵器ヲ奪ハントセリ。イキユオン之ヲ聽

カス。船ヲ舩シテ首府ホセウニ迫リ。上陸シテホ
キーンノ韃王ヲ截リ。更ニ北京ニ侵入セントス。
其子及弟ハ。此暴行ヲ知テ。走テ船隊ニ入り。再來
海上ヲ不安穩ナラシメ。終ニ臺灣ヲ侵セリ。

四三 國姓爺ハ。始ヒユトマンノ一裁縫エナリ。後チア
オシノ指揮官トナリ。今此船隊中ニアリ。曾テ大
ニ荷蘭人ヲ恨ムナリ。蓋シ其原因ハ。韃人ニ敵
セシ片ニ之ヲ助ケサルヲ以テナリ。今六百艘ノ
船ヲ舩シテ。大炮四十門ヲ備フ。支那ヲ食シテ。臺
灣ニ向ヒ。俄カニ上陸シテ。家屋ヲ蹂躪シ。老幼ヲ

撰ハス殺戮ヲ肆ニス。狼狽逡巡スルノ婦女ヲ射
或ハ截リ。或ハ鼻ヲ割リ。或ハ耳ヲ削リ。而シテ之ヲ
セイランジア城ニ向テ。不面目ニ驅逐シ。或ハ之
ヲ寸断ス。此人如キノ暴行。終ニ三人ノ宣教師ニ
及ヘリ。則アントニウスハムブルックアルノル
ジユスヒンセンニユス。及ビートルミユス。是ナ
リ。其暴行残酷名状ス可ラス。人ヲシテ戦慄セシ
ム。第一戦ニ於テ。ケラン城陥ル。蓋シ弱カニ。此
強兵ヲ拒ク。ハサレハナリ。貨財皆掠奪セラ
ル。支那人勝ニ乘シテ。ゼイランジア城ニ迫ル。此

城ニハ三重ノ壁アリ。臺灣トバキソムハヤ島ト
ノ間ノ海峡ニ在リ。此城ノ麓ニ荷蘭人住ス。別ニ
一城ヲ為セリ。此戦ハ支那人ノ久シク意中ニ在
リシ所ナリ。之カ為ニ其船ヲテオアンノ上ニ置
キ。自在ニ貿易場ト為サントスルナリ。而シテオ
アン内ニハ銃ヲ備ヘ家屋ハ牛皮ニテ被ヒセイ
ランジア城ニ向テ井樓ヲ築クノ準備ヲ為ス。又
サリアント官名ハンスユルリアンハ夥シキ
所有品ヲ國姓爺ニ寄贈セリ。是ニ於テ愈根脚ヲ
固ム。裁判所ノ後ニ一ノ隠レ所アリタルニ支那

人千七百ノ銃ヲ放射シテ。終ニ之ヲ奪ヘリ。且更
ニ一井樓ヲ築ク。之カ為セイランジア城。大ニ害
ヲ蒙ルレリ。支那兵百人以上。氣中ニ在テ銃ヲ放
フ。故ニ荷蘭人ハ火繩ヲ備ヘテ。支那人ノ近接ス
ルニ及テ。彈藥庫ニ放火セリ。其災害ノ大ナル
大ニ支那人ヲ悩マセリ。
伯帶比亞ヨリ五船来リテ。セイランジア城ヲ援
フ。而シテ初戦効ナシ。何トナレハ支那人ノ居所ヲ
襲ハンカ為ニ。バキソムバヤニ上陸シクルニ。茲
ニハ三百八十人ノ之ヲ防禦スル者アリシヲ以

テ却テ不覺ヲ取リシナリ。是ヨリ前國姓爺ヨリ
セイランジア城主フレデリキコイエトニ告テ
曰ク。捕フル所ノ宣教師アントニウスハムブル
イックヲ送附スヘシ。依テ之ニ代ルニテオアン市
及セイランジア城ヲ交附スヘシ。若シ之ヲ肯ハ
サレハ各宣教師ヲ悉ク殺戮シテ。許ス所ナカル
ヘシトコイエト之ヲ聽カスシテ。事ヲ憂セシナ
リ。是ニ於テ支那人。再ヒセイランジアヲ圍ミ。防
拒亦頗ル勉ム。然レモバキソムバヤノ敗績ノ後。勇
氣ヲ挫クヲ以テ。コイエト支那人ニ約スルヲア

リ。左件ノ如シ。
區城内ノ者退散スヘシ。肯テ之ヲ妨ケサルヘシ。捕
人ハ總テ之ヲ放免スヘシ。セイランジア城。貸賤
及所有ノ貨幣ヲ償フニ金十トシヲ以テスヘシ。
又銃四十挺ヲ文那人ニ送ルヘシト。而ノ五船ヲ
以テ人員ヲ伯帶比亞ニ送レリ。茲ニ至テコイエ
トハセイランジア家置當ヲ失ヌルノ罪ヲ以テ
入牢セリ。抑モ損害頗ル大ナリ。何トナレハ文那
人ハ。荷蘭高船ノ日本ニ赴ク者アルヲ見ル毎ニ
臺灣ヨリ出テ常ニ之ヲ悩セハナリ。然レモ文那

ノ韃靼帝ヨリ。伯帶比亞領事ニ。使者ヲ送リ曰ク。
カヲ合セテ。文那賊ヲ臺灣ヨリ驅逐セント欲ス
ト。
臺灣ヨリ日本使節ブロクホウヒウスノ一行出
帆シテサレククテ。ニ向フ四國ノ南角ニアリ。
山多ク海中亦低礁多シ。北西ノ一地方ニ向フ翌
日強風アリ。故ニ楫帆ヲ却シ下段ノ帆ニテ洋ニ
出ワ。八月十七日ニ長崎ノ一角ヲ見ル。然レモ判
然ナラス。但シ尚之ニ向テ進行ス。日午之ニ近接
セリ。此時大ニ危難ヲ抱ケリ。蓋シ不案内ニメ低

海ヲ過レハナリ。舟士ハ多島ヲ見テ。以テ長崎ノ
海港ナリト爲セリ。故ニ再ヒ洋ニ出ツ。是ニ於テ
日本船ニ艘ヲ見ル。共ニ帆ヲ張ル。之ニ近接スル
所。大ニ衝突ヲ蒙ル。而ノ其船ハ南去スルヲ
以テ。別船ニ近接セント欲シタレ。此導水者之ヲ
肯セス。

十八日朝前日見ル所ノ角ハ北々東ニアリ。船ヲ
距ル。五里半ナリ。五島島ハ北々西ニアリ。是ヨ
リ直進スレハ午後ニ八野母ノ角ニ至ル。一シ南
西ノ方有馬ノ灣ヲ駛過ス。四里ニノ野母ヲ北東

々ニ見ル。北緯三十一度ナリ。小帆ヲ張テ東北ニ
向フ。而ノ風ニ任ス。翌日諸帆ヲ張ル。此ノ如クニ
ノ船ヲ北ニ向ケ。長崎港ニ入ル。山上ニ夫岩アリ。
突起シテ塔ノ如シ。此山後則長崎ナリ。大畧南六
里ニアリ。之ニ入レハ一二ノ島アリ。別ニ大島ア
リ。中間穿透ス。小舟ヲ通過ス。一シ日午長崎ニ達
シ。深サ六尋ノ砂底ニ投錨ス。忽チ阿蘭船六艘ヲ
見ル。則クリヒウーシ。ゲコロインデリ。イフデ。マ
ースラ。ンド。カムベ。ン。ウイワテ。パール。ド。及フハル
クナリ。ジルクスヌ。イ。クハ。曾テ長崎ニ在ル東印

土商會ノ主裁タリ。又ピリブスシルレマレスハ。東京ノ指揮官ナリ。此船隊ノ長ハ。就中アントラースフリシウスナリ。伯帯比亞領事ヨリ。定規ニ據リ。前ノ亡使者ブロクホヒウスノ代役タルナリ。大ニ世事ニ熟煉セリ。ブロクホヒウスノ遺體ヲ保存スルニ注意シ。盛粧以テ之ヲ土中ニ埋葬ス。但シ日本人及諸印土人皆葬ニ會セリ。十月一日ニジルクスヌーク氏。長崎ヲ發シテ。伯帯比亞ニ赴ケリ。次テアントニウスフハンブルクホルスト各人代テ此地ノ主宰タリ。此人ハ使節アンドラース

フリシウス氏ニ附添ヒ共ニ江戸ニ至リ。日本將軍ニ拜謁シ。阿蘭人ニ日本ニ於テ貿易スルヲ許可セシヲ謝スル為ナリ。此ノ如キ緊要ナル使節ナルヲ以テ同勢ヲ募レリ。長崎ノ商館ハ大ニ多事紛乱セリ。而シテ上ニ記スルカ如ク。阿蘭人ハ平戸ヨリ引移ラサルヲ得ス。則チ六百四十年寛永十八年辛酉巳ナリ。長崎ハ平戸ニ勝ル。固ヨリ論ナシ。阿蘭人商業ニハ大ニ適セル地ナリ。
四平戸ニハ一ノ見ルヘキ物ナシ。唯一城アルノミ。平戸候茲ニ住ス。其城奇麗ニ植附タル地面ニア

リ青キ堅石ニテ造レル橋アリ之ヲ過キテ城門
ニ入ル。兩側ニ三十人ノ兵卒アリテ銃ヲ肩ニス
門ニハ二重ノ屋脊アリ。下層ハ上層ヨリハ延長
ナリ。門ノ一方ニハ將軍ノ記章アリ。他ノ一方ニ
ハ平戸候ノ記章アリ。本城ハ高丘上ニアリ。大ニ
遠望スヘシ。七層ノ高櫓アリ。愈上レハ愈小ナリ。
城ノ双方ニハ戸アリ。各々長階ヲ附シ。丘ヲ穿ツ
但シ其廣サ前門ヨリ宮殿ノ中戸ニ達スルカ如
キニ及ハス。下ニ四箇ノ休息所アリ。圓形ニ造レ
リ。廊下アリテ。四角ナル柱ニ相集合ス。其他平戸

ニハ記スヘキヲナシ。

アンドラスフリシマス
將軍拜謁記事

今使節アンドラ^スフリシウス氏。日本將軍ニ拜謁
スルノ旅行ヲ記スルニ方テ。先ツ日本ノ大畧ヲ
概説スヘシ。抑モ何ノ年ニ於テ。帝國日本ヲ創見
セシヤヲ知ルヲ要ス。之ヲ日本歴史中ヨリ抄録
スルニ

○

ヨアンネスペトリウスマツセイユス日本ヲ記スル所左ノ
如シ。曰ク尋常日本ト稱スルハ。三大島ヲ總括ス。
更ニ多島ノ周圍ニアルアリ。分テ五十三州トス。
首府ハ京都ナリ。全國ヲモ亦斯ク言フ。首府ハ日
本ニアリ。

全國ヲモ亦日本ト称ス。

第二ハ九州分テ九州トス。其最ナル者ハ豊後及肥前ナリ。第三ハ四國分テ四州トス。土佐ヲ最トス。日本全國分テ六十六州トス。全國ノ長サ殆ント二百里。幅ハ之ニ適セス。某ノ地ハ僅カ二十里ニ過キス。最モ廣キモ三十里ニ過キス。全周回ハ未夕確説ヲ得ス。北緯三十度ヨリ三十八度ニ至ル。東ハ新西班牙ニ對ス。相距ル一百里。北ハセーテニ。則韃靼及未詳ノ未開地ナリ。西ニ支那アリ。海岸ノ出入ニ應シテ距離一ナラス。支那ノ東部

最端ニアルリアムボヨリ日本ノ五島ニ至ルハ六十里ナリ。五島ハ航海ニ於テ最モ又葡萄牙人多ク貿易スル所ノ支那ノ西部。瑪港ヨリ前ノ五島ニ至ルハ二百九十里ナリトス。此兩國ノ中間南海ハ未夕知ル所ナシ。是往時或ハ日本ニ漂着スル者アリタレトモ未夕帰航セシ者ナシ。全國多部ハ雪アリ。寒冷ナリ。富饒ナラス。秋時米ヲ収獲ス。衆人ノ常食ナリ。某ノ地ニ於テハ五月小麥ヲ収ム。之ヨリ我法ニ倣フテ蒸餅ヲ製スルヲ知ラス。唯酒及糜ヲ作ルノミ。氣候ハ平和ニシ

安全ナリ。彼此ノ地ニ温泉湧出ス。以テ醫用ニ供ス。

高山ヲ見ル。一ハ其名ヲ詳ニセス。常ニ噴火ス。其巔ニハ魔アリテ。住ス。常ニ雲ニテ蓋ヲ入。或ハ祈誓シテ。久シク断食シ。瘦削スルニ至ルアリ。一ハ富士山ト名ク。雲間ニ聳フル。致里ナリ。鑛坑アリ。致品ヲ産ス。遠人來テ操作ス。樹木ヲ植ユルニ美觀ニ供スルアリ。其果實ヲ賞スルアリ。我邦ニ異ナラス。一種柘植ニ類スル木アリ。其性怪シムヘシ。水ヲ堪ル。ナシ。若シ滋润

スレハ直チニ萎凋スル。猶毒ニ觸ル片ノ如シ。之ヲ扶助スルニハ根ヲ抜キ。太陽ニ晒シ乾カシ。木屑及乾砂ヲ盛ルノ別盆ニ植ユルナリ。此ノ如クスレハ。既ニ枯死セシ者。復ヒ蘗生繁茂スルニ至ルナリ。折レタルカ。或ハ伐リ取りタル枝ヲ幹ニ釘付ニスレハ。復タ發育ス。之ヲ刺スモ同シ。植物中。杉ヲ最モ多シトス。高ク且太ク發育ス。以テ宮殿ノ柱トナシ。船舶ノ樁トナスニ宜シ。日本人ハ羊。豚。雁。及。鶏ヲ飼ハス。肉ヲ食スル片ハ。必ラス野獸ノ肉ナリ。牧野ニハ牛。及軍馬多シ。小

森及刺アル樹ニテ兔野猪鹿ヲ捕フ鳥類ニハ雉
子鴨野鳩及飼鳩鷄及野鷄アリ魚類夥シ殊ニホ
トレン河魚鱒ハ多ク用フル所ナリ牛酪ヲ知ラス
又橄欖油ナシ海濱ニテ獵スル鯨魚ノ油ヲ用フ
賤人ハ松枝或ハ穀物ノ殻ヲ炬火ニ代フ

日本入ハ丈高ク體格恰好ナルヲ自慢ス多クハ
活潑ニシテ強カナリ六十歳マテ軍役ニ供ス頗ル
長キ鬘ヲ生ス頭容ハ各種ナルノ風習ナリ少年
ノ者ハ前頭ヲ剃シ中年及農民ハ羊頭ヲ剃シ貴
人ハ殆ント全頭ヲ剃シ僅カニ後頭ノミニ少許ノ髮

ヲ存ス

生命ニ拘ハル難哉。飢渴寒熱ニ遇フモ之ヲ堪フ
ルノ頗ル驚クヘシ其生産スルヤ直チニ寒氣ニ
觸レシノ更ニ河水ニテ之ヲ清洗ス既ニ離乳ス
レハ獵ヲ習ハシメ生母及乳母ト離隔シ之ヲ寂
莫ノ地ニ置ク謂テク此ノ如クスレハ軟弱溫柔
ニシテ養育スル者ヨリハ能ク事ニ堪フルナリ
ト
床ニハ疊ヲ敷キ恰モ卧床ノ如クナラシム石或
ハ小枝ヲ頭下ニ置テ之ニ卧ス脚ヲ屈シテ腹下

ニ置キ坐シテ食シ且安居ス。支那人ノ如ク不潔
ナラス。食事ニハ二本ノ小棍箸ヲ用フ之ヲ使用
スル。極テ巧ニシテ挟ム所ノ物ヲ脱落スル。ナ
ク又指ヲ汚ス。ナシ。食堂ニ入ルニ浴ヲ用ヒ
サルハ敷物ヲ損セサルカ為ナリ。賤民殊ニ海岸
ニ住スル人ハ野菜米及魚ヲ食シテ保生スルナ
リ。富人ハ支那風ニ美食ヲ嘗ム。卓布及手布ヲ用
ヒス。奇麗ニメ大ニ震揺スル膳ニ各菜ヲ備フ。此
膳ハ杉或ハ松ニテ製ス。調理セル食物ヲ山ノ如
クニ盛り金ヲ撒シ傍ニシプレス。タキスケニス。樹名不詳

ヲ刺ス。或ハ貴人ノ食膳ニハ嘴及足ニ鍍金セル
全鳥ヲ画クアリ。時繪膳。梳。異國人及末客ヲ遇
スル。丁寧親切ナリ。凡ソ飲食スルニハ各般ノ
禮式アリテ甚ク領悟シ難シ。各人能ク之ヲ行フ。
蒲桃酒ヲ製スルヲ知ラス。米ヨリ酒ヲ釀成シ殊
ニ末茶ヲ沸湯ニ和シ用フルヲ大ニ愛翫ス。此茶
事ニハ心ヲ用フル。極テ勉ム。貴人自ラ之ヲ行
フテ朋友ト親和懇交ノ意ヲ表ス。之ヲ行フニハ
別室アリ。則爐アリ。蓋アル釜ヲ置キ之ヨリ汲テ
客ニ供スルナリ。

此室内ニテ。來客ニ所持品ヲ觀ニ供スルヲ以テ。
無限ノ采トス。則茶事ニ使用スル諸器ナリ。曰ク
爐。三脚ノ壺。水瓶。土製茶碗。匙。末茶ヲ貯フル小壺
ナリ。此諸器ハ日本人大ニ貴重スルヲ猶歐羅巴
人ノ金環及眞珠紐ニ於ケルカ如シ。其價ハ工人
ノ自ラ定ムル所ニシテ。貴キヲ驚クヘシ。一品或ハ
五ノ千ノトゾルス。金貨ニ丁ルナリ。
多クハ木造屋ニ住ス。是屢地震アルヲ恐ルニ因
ル。或ハ石室アリ。頗ル精巧ナリ。又結構ナル寺院。
立派ナル神社アリ。男女參詣ニ供ス。

日本言語ハ甚夕平凡ナリ。然レモ各様アリテ。談
話スルニ方テハ。自他身位ニ應シテ差異アリ。一
事ニ致称アリ。或ハ尊敬ノ語アリ。卑賤ノ語アリ。
貴人ノ語アリ。常人ノ語アリ。又男子ノ語アリ。婦
人ノ語アリ。各一ナラス。又談話ノ語ト筆記ノ語
ト別アリ。書牘ト書籍ト其語ヲ異ニシ。其類極テ
夥シク。或ハ韻ヲ踏マサルアリ。又高尚ナル詩ノ
如キアリ。又日本人ニハ一種ノ語アリ。一字能ク
一意ヲ存ス。支那及既日土字ニ異ナラス。故ニ日
本語ヲ學ブハ甚夕難シトス。

四日本人大ニ闘争ヲ好ム其武器ハ手銃弓矢ノ外
更ニ膏刀及鎗ナリ男児十二歳ニ及ハ則チ使
用ヲ習フ刀鎗ハ剛鍊ヲ以テ鍛治ス能ク欧羅巴
刀ヲ截テ又チ損スルナシ又金銀ヲ以テ粧飾
セル投矢アリ又其鎗ヲ使用スルノ輕捷ニモ堪
久ナルヲ我輩ニ過クルヲ著シ
衣服ヲ愛スルノ頻回ナリ小児ヨリ童年ニ至ル
各々禮式及風俗アリ既ニ童年ニ及ハ長クノ
裸ニ連スルノ外套ヲ服ス屋内ニ在テハ外套ヲ
脱ス但シ他行スルニハ同シク澗キ袴ヲ着ケ腰

部ニテ掲ケ袂ハ外套ニハ短カキ羅紗切ヲ附ス
日本人之ヲ紋ト称ス張付紋袖ハ腕ニ及フ此服
ハ夏日ハ草ニシテ精布ヨリ製シ冬日ハ粗ニシテ
重ナリ蚕綿ヲ盈ツ其製極テ巧ニシ綿ノ離脱ス
ルヲナシ履ハ踵當ヲ具セス上階ノ如クニシテ
輪狀ノ緒アリ大趾ト第二趾ノ間ニコレヲ挟ム
金箔ヲ撒スルノ扇ヲ持ツ是面ヲ覆ヒ又風ヲ煽
クニ供ス貴人ハ笠ヲ冒リテ日光ヲ避ク賤人ハ
男女共ニ露頭ニテ晴雨ニ拘ラズ歩行ス
日本ニテハ黒色及紅色ヲ慶事ノ徴トシ白色ヲ

凶事ノ徴トス。食事。及衣服ハ。歐羅巴人トハ。全ク
相及ス。我カ香料ノ如キヲ帶フルナシ。我カ美
味トスル者ヲ嫌ヒ。彼ノ美味トスル所ハ。我カ避
クル所ナリ。我ハ冷水ヲ飲ム。彼ハ冬夏共ニ温用
ス。彼ノ緩ナル歌曲ハ。我耳ヲ喜ハスニ足ラス。齒
ハ我ハ白色ヲ愛ス。彼ハ黑色ヲ貴フ。故ニ黒物科
ヲ以テ常ニ染ムルナリ。朋友。及男子ハ。婦人ニ前
行シ。從者之ニ隨フ。我ハ階ヲ上ルニ左ヨリス。彼
ハ右ヨリス。祝スルニハ我ハ帽ヲ脱シ。頭ヲ露出
ス。彼ハ上階ニ於ケルカ如ク。履ヲ脱テ。指足ヲ進

ム。我ハ朋友ヲ迎テ立ツ。彼ハ坐ス。我ハ寶石ヲ大
ニ貴重ス。彼ハ鏡。及磁器ヲ愛翫ス。藥劑ハ我ハ日
クノ能ク煮タルヲ用フ。彼ハ塩氣アリ。炭キヲ患
者ニ微温用ス。我ハ雛鳥。及肥セル鳥ヲ用フ。彼ハ
魚。及貝ヲ用フ。我ハ屢浮血ス。彼ハ否ラス。若シ
歐羅巴人。彼ヲ嘲弄スルニ此諸件ヲ以テスレハ
彼必ラス醜然トシ。此諸件ヲ以テ抗論スヘキナ
リ。
此ノ如ク。彼我其風習ヲ異ニスト。虽然レ氏交際
上ノ人情ニ於テハ。敢テ異ナレトナシ。國土ヲ差

配スル主領ヲ總稱シテトニ殿ト云フ。但シ此ト
ニ中各等ノ階級アルヲ猶歐羅巴ニテコロニゲン
ハルトーゲンマルクガラーヘン及ガラーヘンアルカ如シ。此威
權ハ金銀貸財ニ由ルニアラス。又從僕ノ多キニ
由ルニアラス。何トナレハ大主領ハ其家臣及血
族ニ土地ヲ割與シ。旋ノ法制ヲ守ラシム。但シ定
貢アルニ非サレハナリ。此土地ヲ割與スル片。誓
約アリ曰ク。借り人ハ無事ノ日ニハ主ノ平生ノ
職務ニ準シ。軍事アレハ其自用。及雜費ヲ供給ス
ヘシ。是ニ於テ主ハ貧困ニ陥ルモ家臣多ク奉仕

人多キカ爲ニ尚其威權ト官職トヲ失スルナ
シ。然レモ心志高尚ナルヲ以テ死ヲ顧ミス。困厄
ヲ辭セス。能ク其職務ヲ失ハサルハ賞スヘキナ
リ。若シ年齢衰頽スレハ自家ノ給養ヲ保持シテ
其子或ハ他人ヲシテ我カ後ヲ受ケシメ。國政ニ
參撰シ。更ニ注意シテ幼主ヲ補佐スルナリ。

④日本人ノ第二等ハ國人ノ邪教ヲ信スルヲ注意
スル人ナリ。頭髮及領髭ヲ剃除シ。潔齊修行。縁組
ヲ絶シ。隱惡。姦淫ヲ避ケ。佛教及國法ヲ遵守シ。世
人ニ注目シ。金錢ヲ募ルナシ。高官。貴族ノ屍ヲ

守リ。佛堂ニ於テ衆僧併列シテ。經文ヲ唱ス。又望
ニ應シテ衆人ノ為ニ說教ス。其宗派頗ル多シ。然
レモ總稱シテ坊主ト云フ。多クハ貴族ヨリ出ツ。
何トナレハ大家ニテモ多子ナルカ。或ハ家計不
給ナル中ハ之ヲ坊主ト為セハナリ。各地ニ大學
校アリ。過多ノ所頗ク有ス。故ニ往時ハ日本貴族
ノ上等ニ列セリ。然レモエウアングレセ光明現出スル
ニ及テ。人民其詐偽ヲ悟リ。次第ニ舊教衰微シテ
復タ振ハス。
第三等ハ紳士及他ノ貴族ナリ。多クハ王家ニ仕

フ。武功アル人。詩人。老武人ナリ。又精巧職人及出
拔者ナリ。
最下等ハ農民ナリ。貧困ナルカ為ニ有力者ニ使
役セラル。其致極テ多ク。大ニ歐羅巴ニ過ク。之ヲ
概スルニ人民伶俐敏捷ニシテ思慮當ニ東方人ニ
勝ルノミナラス。更ニ西方人ニ過クル所アリ。好
學ニシテ覺性アリ。是農民ニ於テモ小兒ニ於テモ
判然タル所ナリ。則行儀正シク。才氣活潑ナレハ
ナリ。且一人ノミニアラス。又其羅甸語及學術ヲ
領解スル。歌羅巴人ヨリハ大ニ容易ナリ。貧困

ハ耻辱ニアラストシ。誹謗スル者ナシ。又之ヲ見
ル。一ヤナシ。詳カニ其生計ヲ察シ。止ムヲ得サル
ノ不幸ヲ知ル。詈罵。盜賊。不信心。及諸博奕ヲ好マ
ス。

大ニ名譽ヲ好ミ。大小事ニ拘ラス。言語ヲ慎ム。蓋
シ他人ノ信セシ。一ヲ求ムレハナリ。他ヲ輕蔑セ
サルノミナラス。更ニ横柄ニセス。故ニ各人相互
ニ尊敬シ。殊ニ貴人ハ各其職務ト。勲賞ヲ空フセ
サラントス。卑賤ノ職工日雇タリ。氏能ク雇主ノ
指揮ニ隨ヒ。敢テ其命ニ背カス。此ノ如クナラサ

レハ雇主怒テ其賤ヲ抛テ。其事業ヲ休止セシム
ルナリ。

吾故ニ彼輩固定及ヒ柔順ヲ保持シ。穩順沉静ニシ
テ。驚駭セスシテ。次第ニ之ヲ休止シ。謹慎シテ時
ヲ待テ。其言語行狀ニ於テハ。恐縮ノ狀ヲ呈シ。意
ヲ屈シテ。外貌ニハ激烈ヲ制抑スルニ慣ル。殊ニ
憤怒ノ諸徴ヲ秘シ。及對ノ証ヲ示シ。運步遲々ト
ノ。顔色怡悅ス。又貴人ニ對シテハ。常ニ意ヲ曲テ。
決シテ舌ヲ自在ニ運動セシメス。絶テ抗論爭議
スル。一ナシ。村落ニテモ。市街ニテモ。屋内ニテモ。

夫婦ノ間ニテモ。老少ノ間ニテモ。師弟ノ間ニテモ。總テ此ノ如シ。其爲ス一キ所ハ固信シテ十分ニ行フ。若シ怒ムルアルモ。互ニ和ヲ講シ。或ハ過失アル片之ヲ責ムルニ。酷ニ過クルモ。尚之ヲ忍ブ。裁判及勸解ヲ要スル。極テ稀ナリ。且偶裁判アルニ。我本國ニ於ケルトハ異ナリ。其不平怨恨アルハ之ヲ貯テ以テ鬪争ニ訴フ。又各自相集會スルニ方テ。其朋友ニ家事困難。貧窮。及悲歎ノ事件ヲ口外スル。甚夕稀ナリ。又不時ノ悲歎。及無益ノ難澁談話ハ。敢テ他人ノ歡樂。及寧靜ナル片

ニハ之ヲ告クル。ナシ。他人之ヲ問フ。アレハ。苦笑シテ全事ヲ告ケス。僅カニ一斑ヲ以テ答フ。抑モ余力聞見スル所ニテハ。人生榮枯。得喪。盛衰。浮沉ノ變遷。容易ナル。日本ニテハ常事ナリトス。卑賤ノ人。俄カニ王侯ト爲リ。又高貴ノ人。忽チ凋零シテ貧困トナル。此ノ如ク。交番轉移スルヲ以テ。大ニ榮譽ノ念ヲ固ム。然レモ之ヲ得ル。亦容易ナラス。意志不撓。耐忍。以テ之ヲ準備ト爲スナリ。既ニ得ル所ノ榮譽ハ。喜ニ祖先ヲ輝カスノミナラス。更ニ子孫ヨリ初生兒ニ累及シ。温飽安

逸ヲ逞フスルニ足ルナリ。
以上説ク所ハ日本人ノ好所ナリ。然レ其大ニ
憤怒シ易キ性アルヲ以テ之ヲ汚穢セリ。第一信
心。及善惡可否ノ目的ニ於テ大ニ惑フ所アルハ
猶他ノ基督教ヲ知ラサル國人ニ同シ。信心。及學
術ハ上ニ記スル所ノ坊主ノ教授スルニ依頼ス
但シ各種ノ學派宗徒アリト虽天命ヲ説キ魂魄
不死ヲ説カサレハ一ナリ。而シテ或ハ一途ニ他顧
ナク佛ヲ信スルト。秘密貴重ナリトスルトノ別
アリ。曰ク凡人ヲ諭スニハ地獄苦責ノ説ヲ以テ

恐怖セシメ。其心ヲ械枷スルニ過キス。
此ノ如キ途誤ヲ来ス所以ハ二人ノ舊教徒阿彌
陀。及釋迦ヲ尊信スルニ由ル。凡ソ信心スルニハ
疑惑。或ハ悲哀スル片ニ方テ清淨虛無ノ心ヲ以
テ請願スルヲ要トス。之ニ由テ困難事件ニ逢ヒ
生命危険ニ臨テ安全幸福ヲ祈リ。罪障消滅ヲ得
一シトス。是帝ニ愚昧ヲ示スノミナラス。神聖ニ
耻辱ヲ共ヒ不信ヲ表スルナリ。且佛ヲ索ムルニ
艱テ身ヲ毀傷スルニ至ルハ。是罪障ヲ重ヌルナ
リ。阿彌陀。及釋迦。又他ノ諸佛ノ始祖ヲホトケト

称ス更ニ別神アリ。健康ヲ祈リ。小児ヲ索ノ。金銀
ヲ求ムル等。凡ソ一身ニ属スル事件ヲ誓願スル
中。祈念スル所アリ之ヲ神ト名ク。

五王候。公孫ノ行状。善言。美行アル者。又軍効アル者。
皆之ヲ半神ト為ス。一シ。其不適當ニノ笑フヘク
耻ワヘキハ。猶希臘詩人所謂人ユロゲル。サチエル
ニユス。バギユス。及他ノ諸神ノ如シ。是ニ於テ日
本人次第ニ真徳ヲ失シ。真教ヲ缺ク。為ニ舞踏。飽
食。或ハ娼妓ヲ買フノ醜行アルニ至ル。内心ノ變
動ハ。幼時ヨリ隱匿スルニ慣ルヲ以テ。不信トナ

リ。虚偽トナリ。詐欺トナリ。或ハ戦争トナリ。或ハ
他ヲ苦責スルノ後。親交ヲ結ヒ。慳厚トナリ。又嘲
弄シテ。憤怒。罵詈。残酷トナル。
瑣細ノ原因アルカ。為ニ不意ニ背後ヨリ人ヲ襲
ヒ。一刃ノ下ニ之ヲ截リ。或ハ兩刃ヲ以テ。之ヲ屠
リ。刀ヲ鞘ニ納メ。恬然トシ。談笑スル。猶一事ヲ
為サシル時ノ如キ者アリ。又刀劍ノ利鈍ヲ試験
スルカ。為ニ好期ニ於テ。罪人ノ頭ヲ断チ。或ハ肩
ヲ截ル等。珍事ニアラス。
戦争ニ於テ。掠奪セル市街。及村落ニテハ。火ヲ放

ナ。兵ヲ弄シ。殺戮ヲ恣ニシ。老幼男女ヲ撰ハス。其
首ヲ截リ。其賊ヲ掠ム。此等ノ暴行ハ。許サル所夕
リ。此故ニ公然トノ人ヲ殺シ。賊ヲ掠メ。山ニハ山
賊アリ。海ニハ海賊アリテ。人民非常ノ不幸ヲ蒙
ムルコトアルモ。敢テ之ヲ制止スル者ナシ。
妊婦。或ハ藥液ヲ飲テ。墮胎セシムルコトアリ。是坊
主ノ教ユル所ナリ。或ハ哺乳兒ノ咽喉ヲ踏テ。之
ヲ殺スコトアリ。蓋シ其母。之ヲ養育スルヲ厭フニ
出ルアリ。或ハ貧困ノ為。終ニ之ニ及フアリ。
重病ニ罹ル者。及他國人ハ。決シテ住居スルヲ許

サス。故ニ此輩止ムヲ得ス。露天ニ泊シ。敢テ之ニ
近接スル者ナシ。故ニ或ハ長病ヲ經テ。幸ニ一生
ヲ得ルアレモ。多クハ大患ニ陥リ。終ニ斃ル。棄屍
堆ヲ爲スニ至ルコトアリ。有罪人ハ其原因ニ拘ラ
ス。追放。流竄ノ如キ。輕罪ニ處セスノ。皆死ニ處ス。
或ハ卒然トシ。一刀ノ下ニ殺スコトアリ。否ラサレ
ハ其復讐ヲ恐ルナリ。或ハ入牢人ヲ車ニ載テ。市
外ニ送り。之ヲ磔ニスルコトアリ。
謀叛人アレハ。之ヲ處置スルコト。左ノ如シ。先ツ若
干ノ兵ヲ送り。其家ノ四方ヲ圍ミ。而シテ敵對スル

ヤ。若クハ自盡スルヤヲ撰ハシム。若シ其戦ハシ
ト欲スル者ハ直チニ戦ハシム。則チ全家族ヲ招
集シ。圍戰シテ斃ルニ至ル。是蓋シ臭名ヲ後昆ニ
遺ストスル所ナリ。又自裁ヲ要スル者ハ。自ラ一
刀ヲ執テ。腹ヲ斜ニ割クナリ。勇猛ナル者ハ。十字
ニ截リ。腸ノ露出スルニ及テ。其侍者ニ命シテ。頸
ヲ刎セシム。親戚。朋友。皆其屍上ニ伏死ス。此ノ如
キ所業ハ。名ヲ好ムカ爲ニ出ル所ナリ。尚且父罪
アレハ。子ニ累連スルヲ以テ。父自ラ其子ヲ手及
スルヲアルナリ。

五二之ヲ概スルニ日本ニハ公事ナシ。裁判ナシ。保管
ナシ。牢獄ナシ。保証人ナシ。又罪人ヲ呼出シ。其答
辨ヲ聽クナシ。裁判ハ唯兵器ニ訴ルノミ。或ハ
長上ノ意ニ任ス。大候ハ小候ヲ制シ。小候ハ臣僚
ヲ制シ。臣僚ハ家族ヲ制ス。死生ノ權。總テ長上ノ
手裡ニアリ。
郷主。及國主ハ。我カ領地人民兵卒ニ注意スルナ
ク。總テ近臣ニ委托依頼ス。然レ臣僚之ヲ尊
奉敬崇ス。護兵身ヲ固擁シ。容易ニ他人ノ近接ス
ルヲ許サズ。人アリ上申スルナレハ。前額ニ皴

ヲ寄セ。領ニテ領シ。或ハ筆記ニテ之ニ答フ。敢テ
 一語ヲ放タス。人民ヲ懇親ニ扶助スルヲナシ。驚
 駭ニ由テ百事ヲ指揮ス。故ニ群下主長ヲ怨ムニ
 至ル。一アリテ。屢徒黨。及一揆蜂起シ。主長元ヲ失
 フニ至テ。一時改革スル所アルカ如キモ。久クシ
 テ復タ前ノ如シ。故ニ同一地ニ於テ。能ク久シク
 其職ヲ奉スルヲ難シ。
 往古ハ日本ハ唯一王ノ支配スル所ナリ。之ヲ王
 或ハ内裡ト称ス。永年無事安穩ナルニ慣テ。自肆
 放逸トナリ。漸ク卿主國主。就中キエビ二個ノ緊

要ナル權官ナリ。以テ相補佐ス。ノ輕蔑スル所ト
 ナリ。政令行ハレス。各人割據スルニ至レリ。
 今日ニ及テハ。内裡ノ威カハ。唯群僚ノ位階官職
 ヲ授クルニ過キス。將軍ヨリ莫大ノ歳貢ヲ納ム
 是ニ於テ政令能ク一途ニ出ルナリ。日本諸王中
 最モ威權アルハ京都及之ニ迎接スル地方ナリ。
 尋常之ヲ天下ト云フ。兵馬ノ權ヲ有ス。此地ハ近
 年信長ノ占ムル所ナリ。後其位ヲ羽柴絃キタリ。
 是信長ノ近臣ノ最ナリ。其妻子ヲ養護ス。
 ヨアンネスベトリユスマヒウス氏。日本ヲ説ク

一 庄ノ如シ。曰ク日本人ハ。大ニ好學從順ナリ。而
ノ能ク事理ヲ解ス。屢余カ居テ訪フ。其来ルヤ直
チニ魂魄ノ始ヲ問フ。又其不滅ナルハ如何。何様
ナル人カ能ク神聖ト為ルヲ得ルヤ。造物者ハ何
等ナルヤ。云々。而シテ忽チ感悟スル所アリテ。年未
信スル所ノ佛教ヲ棄テ。耶蘇徒トラシテ請フ。
既ニ一回之ヲ信スレハ。固執シテ變心スルヲナ
シ。信心ノ為ニハ敢テ困苦ヲ厭ハス。又日本人ハ
好奇ニシテ大ニ向テアリ。サヘリウス氏。此地
百五十一年。ニ至ルヨリ。今既ニ五月ニ及ヘリ。一
平戸ニアリ。

日トノ坊主及衆人早朝ヨリ。深夜ニ至ルマテ。未
テ諸般ノ事件ヲ尋問セサルノ日ナシ。例之神ト
ハ如何ナル者ナルヤ。何ノ地ニ住スルヤ。何故ニ
之ヲ見ルヲ得サルヤ。魂魄ノ本體ハ如何ナル
者ナルヤ。其原始及不滅ハ如何ト。日本人固ヨリ
伶俐ナリ。才智アリ。故ニ眞實ナル國人ニ向テハ
決シテ勝ヲ争フヲナシ。諸外國人ヲ眦睨シ。鬚及
手ニテ之ヲ排斥ス。能ク可否ヲ判決ス。故ニ外貌
ニテハ坊主ヲ尊信スルカ如キモ。内心ニテハ大
ニ之ヲ輕蔑ス。蓋シ其行狀正シカラサレハナリ。

又コスミユスチユルレシス氏曰ク。今再ニ使
経シク既ニ前ニ説クカ如ク。アンドラスフリシウ
ス氏ハ。順序ヲ經テ。伯蒂比亞領事ヨリ命シテ。ブ
ルークホヒウス氏ノ代役トナリ。是人望ニ出ル
所ナリ。歸去セルジルクスヌーク氏ノ代役ナル
アントニウスブルークホルスト氏ヲ副使トナ
シ。フリシウス氏ヲ正使トナシ。長崎ニ於テ緊要
件ヲ處置セシム。則チ諸事ヲ整理シ。長崎ニ向テ
東印土商會ノ倉庫ヲ主裁セシム。阿蘭人ニ屬ス
此居留地ヲ畧説セントスルハ。大ニ難事タリ。抑

出島

モ此地ハ。往年葡人ノ居留シタル所ナリ。然ルニ
日本人其渡来ヲ禁シ。阿蘭人ヲ平戸ヨリ之ニ移
シ。葡人ノ舊地ヲ讓共セシナリ。口ジ日本ノ新本名
ニ出島スルハ。一ノ小島ナリ。長崎市中トハ一水ヲ隔
ツ。其川幅五十尺ナリ。長四角ナル木橋ヲ架ス。其
長サ百五十尺。幅五十尺ナリ。此島ノ周圍ニ亂抗
ヲ植エ。以テ水勢ノ衝突ヲ防ク。島ノ市中ニ長官
ノ住居アリ。壯大ニノ立派ナリ。傍ニ結構ナル花
園アリ。全市分テ四區ト為ス。兩側ニ各種ノ倉庫
アリ。各々廣地ヲ占ム。海ノ入口ニ二門アリ。美ナ

ル廣キ石階アリ。深ク水ニ入ル以テ。小舟ノ着岸ニ便ニス。島ノ中央ハ結構ナル街道アリ。家屋ニテ回遶ス。諸商人往還ス。其最モ多ク販ク所ノ品ハ下名ナリ。白色粗絹。パンシンス。ベリリンキ。スギーレムス。シオンス。ガセン。シユモレギース。染料着色ノブロカーデン。サテーネン。支那ハビノス。ダマス。デン。シオウエロンス。麻布。シットケ。レーデン。ナイイセーデ。セーデ。ベ。サツパン。ホウ。黒糖。カンボチヤ。メーチ。カイマンス。ヘルシ。ン。紅革。明礬。カボツク。蠟。白糖。冰糖。剛鍊綿。外承カ。

ツシアリ。グナ。緑青。茶。陶製。ヘルフ。龍腦。カレム。バク。麝香。支那綿。ハ。イール。及鹿皮。牛皮。紙。胡椒。象牙。蕪木。以上諸品多クハ支那ヨリ輸入スル所ナリ。他國ヨリ又他品ヲ輸入ス。長崎通商事件ニ就キ。日本將軍クワネヨリ。其地ノ奉行ニ令スル。左ノ如シ。寛文六十年。十五年。執政五人記名ス。汝輩決シテ日本人。民。及船舶ヲ他國ニ出帆セシムル。勿レ。若シ日本人。秘カニ没亡スル者アラハ。之ヲ捕ヘテ殺セヨ。貨賂ハ没収シ。舟子ハ嚴刑ニ課ス。一シ。日本人。他地ニ移住

スル者アラハ之ヲ死刑ニ處スヘシ。僧徒書ヲ以テ人ヲ教化セントスル者アラハ能ク之ヲ探偵スヘシ。一僧ヲ密告スル者ニハ銀百スコイトヲ共フヘシ。之ヲ捕フル者ニハ重賞ヲ共フヘシ。入港ノ船舶聊タリニ我國法ニ觸ルトアラハ直ニ大村ノ軍ヲ差向クヘシ。商人ハ一人ヨリ賣買スルト勿ルヘシ。必ラス衆人ヨリスヘシ。貴族及武士ハ異人ノ品ヲ購求スルト勿ルヘシ。日本人ノ仲買ヨリスヘキナリ。外國船ノ記章アル貨物ハ代價ヲ定ムルノ前ニ於テ先ツ之ヲ公告スヘシ。

シ。麩絹ノ定價ハ五府ニ報告スヘシ。絹價一定ニハ他ノ商人ニ領兼セシムヘシ。購求人ハ二十日内ニ代價ヲ償フヘシ。遠地ヨリ来ルノ船ハ九月廿日ニ出帆スヘシ。遲着セル船ハ着港後滞留十五日ヲ許ス。五府ノ諸商人ハ七月五日ニハ長崎ニ現在スヘシ。否ラサレハ絹ノ分配ニ漏ルヘシ。平戸ニ送ル絹ハ長崎ニ於ケルト同價ニテ求ムルヲ得ヘシ。絹價一定スルノ後ニ非サレハ敢テ他物ヲ賣買スルト勿ルヘシ。以上規則將軍クワネ十二年仙石大和守、榊原飛騨守、次ニ加賀守

豊後守。因幡守。讃岐守。大炊頭。

フリシウス氏。及ブルークホルスト氏。ハ旅装既

ニ備ハルノ後。千六百四十九年十一月二十五日。

慶安二年

前記ノ出島ヲ出立シタリ。阿蘭人二十人。共力三

人。譯官三人。日本人三十四人。隨從ス。三隊ニ分ツ

此ノ如クニ。長崎ヲ舞セリ。此地ハ佛人。及葡人

ハナシガサキト称シ。以太里人ハナシガサキト

称ス。豊後又四國ト称スルノ一部ナリ。

⑤長崎ヲ距ル一六里ニ一漁村アリ。シユホス

ト称ス。此漁人ハ日本他地ニ於ケルカ如ク。羊脂

ヲ穿テ。小舟内ニ桶ヲ置キ。魚ヲ生育スルニ供ス。

漁法致様アリ。或ハ鉛ヲ用ヒ。以テ水中ノ魚ヲ射

ルナリ。鉛ニハ組タル索ヲ附ケ。魚ニ達スルマテ

索ヲ弛ム。又一法アリ。ペルキングシタング。及他

ノ海底ノ魚ヲ漁スルニ用フ。則チ其船ノ前端ニ

滑車アリ。之ヨリ線ヲ却シ。末端ヲ車ニ纏ヒ。餌ヲ

隠ス。

長崎ハ北緯三十三度ニアリ。貿易ニ適スル。日

本ノ他地ニ勝レリ。人民衆多ナリ。但シ日本他地

ト同シク。護堀ヲ設テス。堂塔アリ。四層。五層。或ハ

六層ナルアリ。高く聳テ。遙ニ街上ニ突出シ。大ニ
長崎ノ外粧ヲ美ニス。市中固ヨリ大家。巨屋アリ
テ。海上ヨリ遠望スヘキモ。此寺塔アルヲ以テ。愈
見易シトス。街ヲ通シテ溝渠アリ。木橋ヲ架ス。然
レモ路上敷石セサルカ故ニ。雨日ニハ極テ汚穢
ナリ。各街毎夜門ヲ閉テ。且看護ス。是盜賊。及亂暴
人ヲ防クニ供ス。固ヨリ冗事ニアラス。
家屋ノ形状。大畧相同シ。唯其職業。及貧富ニ應シ
テ。其材ヲ異ニス。多クハ木造ナリ。貧民ハ樹枝ニ
テ構成シ。粘土ヲ密着シ。以テ風雨ヲ防ク。有力者

ハ壁ヲ粧フニ望テ以テス。床ハ地上四尺ニテ板
ヲ敷キ。奇麗ニ厚キ畳ヲ併フ。
家屋ハ四角ニノ高シ。但シ日本ニハ地農多キカ
故ニ傾倒ヲ恐ルヲ以テ。高屋ヲ築キ難シ。屋脊ハ
尖カラス。稍凸ニテ斜面ナルノニ。側壁ヨリ延ル
一四尺許。或ハ廊下アリテ行人雨ヲ凌クヘシ。或
ハ岩石。及常緑樹ヲ植テ。大ニ饒ルアリ。其傍ニ食
堂アリ。日ヲ喜ハシムルニ足ル者ナシ。屋脊ニ廡
アリテ。日光ヲ避テ。雨ヲ防ク。其狀阿蘭ニ異ナル
ナシ。

屋脊ハ木造ナリ。然レハ樋ヲ架スルカ故ニ之ヲ
リ雨水ヲ導クヘシ。更ニ大水桶ヲ供フ。火災ノ用
ニ備フナリ。
家人ハ屋ノ下層ニ住ス。上層ハ雜具ヲ置クナリ。
凡ソ市街村落皆木造ナルヲ以テ。屢大火災ニ罹
ルナリ。故ニ富者ハ屋傍ニ倉庫ヲ築キ以テ諸
貨及貴品ヲ貯ヘ。火災ヲ防ク。災後ノ地速カニ再
ヒ新築ス。木材ヲ要スルノ頗ル夥シ。石室ハ極テ
稀ナリ。地震ヲ恐ルナリ。
貴人ハ美屋ニ住ス。多クハ二部ニ分ツ。入口ノ一

側ニ婦女ノ室アリ。他側ニハ男子住ス。各室アリ。
男子ニ要用ナル品及對客ノ要具ヲ備フ。其室ノ
美麗驚クヘシ。金彩屏風ヲ室内ニ併列シ。扁額ニ
代フ。遙カニ歐羅巴式ニ勝レリ。
⑤内壁ニハ美紙ヲ貼シ。巧ニ繪ヲ画ク。其紙ヲ貼ス
ルノ精巧ナルハ。接際ヲ認視スルニ難シ。四邊ニ
黒塗ノ縁アリ。
某ノ室ニハ透明ナル戸アリ。開閉スヘシ之ヲ開
ツレハ恰モ壁ノ如シ之ヲ開ケハ立派ナル室ア
リ。室ノ高所ニ精画ヲ掲ク。其下ニ瓶アリ。園中日

リ折リ来ル芳香ナル花ヲ挿ス。壁ニ傍テ漆塗ノ箱アリ。又茶器アリ。或ハ壁ニ刀劍ヲ掛ルアリ。是最上ノ粧鎊ナリ。精粗一ナラス。家屋ノ外貌ハ異彩ナク。又漆塗ノ粧鎊ナシ。各家相接シテ街上ニ併列ス。市街ハ總テ狭小ナリ。但シ直線ナリ。定度アリテ分割ス。每街六十間即ニ百尺ナリ。

長崎ニハ八十八ケ町アリ。夜分ハ每街柵或ハ門ヲ鎖シ。灯燈ヲ携ヘサル者ハ通行ヲ許サス。奉行ヨリノ通行鑑札ヲ所持スルニ非サレハ。夜中門

ヲ出ルヲ得ス。産婦或ハ瀕死ノ病者ニ赴クノ産婆。及醫生モ此鑑札ヲ所持セサレハ。敢テ通行スルヲ能ハス。此ノ如ク夜行ヲ禁スルニ因リ警ク一キ一話アリ。街上火災アルモ門ヲ開カス。故ニ火ヲ失スルコトアレハ。自ラ之ヲ消滅スヘキノミ。他人ノ来リ救フヲ望ム可ラス。此ノ如キ習慣アリテ。閉門スルニ由リ。嚙ニ屋ヲ灰ト為スノミナラズ。男女老幼共ニ焼死スルニ至ルコトアリ。阿蘭人曾テ之ヲ親視セリ。千六百四十五年。正保二年乙酉。後光明天皇二年。長崎ニ在留ス。一夜市中火

ヲ失シ。二十家灰燼トナル。室苑スル者多シ。若シ
強テ禁テ犯シ。門ヲ出ントスレハ。則刎頭セラル
ヲ恐ルレハナリ。
或ハ全村全街。灰燼トナル。アリ。然レ日本
尚木造屋ヲ構フ。木枝ヲ要スル。夥シ。殊ニ杉ヲ
多シトス。美ニノ廣シ。焼斑ヲ附セサレハ。我ソ
ゲンスコト。操樹ノニ異ナル。ナシ。又多クハ白
木ヲ用フ。是阿蘭人ノカラヘシムハ。ル。樂器ヲ製スル
品ニ同シ。又樟樹長サ十尺。幅四尺ナルアリ。
又長崎ノ周圍ニハ。丘陵アリ。其絶景詳記スル。

能ハス。各種ノ果樹能ク速カニ繁茂ス。故ニ市中
ニ果實多シ。就中香橙。及梨子。又野菜ナリ。殊ニ杉
ハ高ク聳テ雲ヲ衝クアリ。此ノ如キハ堂宇ノ柱
トナシ。船舶ノ檣ト為スヘシ。
長崎ノ寺院亦木造ナリ。多クハ四角ニノ。各側四
十尺。木造塔アリ。雕刻精密ニノ。鍍金ス。此類其數
極テ多シ。但シ皆小ナリ。其雕刻ノ精巧ハ言テ
タス。其尖頭ニ龍ヲ置キ。又屋脊ノ四方ニモ同シ
ク龍ヲ置ク。殿内ニハ恐ルヘキ異像ヲ彫ス。日本
人短時之ヲ拜シ。銅錢ヲ賽錢箱ニ投ス。

○長崎ノ人民ハ他ノ東印土人ヨリハ白シ然レモ
○歐羅巴人ニ比スレハ黄色ニテ鮮活ナラス但シ
○強壯健全丈夫ナリ多クハ低鼻小眼ナリ婦人ハ
○殊ニ然リ衣服ノ製男女共ニ大ニ異ナラス長キ
○外套ヲ着ス袴ヲ膝ニ至ル但シ支那ノヨリハ短
○カシ此外套ハ胸ニテ相交又シ其左衽ヲ右臂ニ
○安シ右衽ヲ左臂ニ安ス此ノ如クニノ帯ニテ中
○間ヲ締スルニ非ス故ニ外套ノ左衽交叉スル所
○胸上ニ於テ毘トナリ紙ヲ挟ムニ適スル襖トナ
○ル帯ノ左側ニハ長膏刀ヲ挿ス兩手ニテ之ヲ支

フヘシ

貴婦ノ粧ヲ所極テ華美ナリ髮ノ結ヒ方ハ尋常
○婦人ニ異ナラス然レモ上套ハ大ニ潤シ且貴重
○品ニテ製ス各所ニ金彩散亂ス廣キ衽アリテ頸
○ヲ纏ヒ胸ニテ左右交叉ス帯ハ潤ク四重ナリ金
○銀糸ニテ粧飾シ中腹ヲ纏フ左手ニ扇ヲ携フ扇
○面ニハ花鳥ヲ画キ金ヲ撒シ漆ヲ塗ル外套ニハ
○縫物アリテ其下ヨリ他ノ八九條ノ絹ヲ下ケ袴
○ヲ尾ノ如シ此ノ如クナレモ之ヲ着スルニ困難
○ナラサルハ其絹ノ頂精緻ナレハナリ此ノ如ク

美粧スルモ外出及表席ニ至ルヲ稀ナリ日暮快晴ニハ其男ニ伴テ散歩シ或ハ駕籠ニ乘テ遊行シ或ハ幕ヲ張ル舟ニ乘テ水行ス

日本畧説
アルゲンタナ
シバングレ

余阿蘭使節ニ隨テ日本旅行スル記事ニ方テ先
此ノ盛華ナル日本帝國畧説ヲ總論スルヲ緊
要ナリトス日本ハ本國人ハニッポント唱フ往時
西班牙人ハアルゲンタナト呼ヘリ千二百年ニ
シレトセハシバングレト稱ス有名ナルアウキ
エスチネルモルニキス僧官バウリュスヘネキユス氏ノ説ニ據
リ曰ク東ハカリホルニア及新ガラガニ對ス然レ

氏海ヲ隔ツル一千里ナリ日本ノ西ニハ高麗及
大支那アリ海湾出入ニ準シテ遠近一ナラスリ
ンスユートン氏ハ支那ト日本トノ最近距離ヲ八十
里トス日本北ハ蝦夷ニ界ス北ニハ安南及北亞
墨利加アリ南ニハ小呂宋諸島シングオキロー
及モリユスセアリ

日本ハ北緯三十度ヨリ四十度ニ至ル故ニ長日
ノ極ハ十四時ト四分ノ一短日ノ極ハ十時ニ四
分ノ一時ヲ減ス高日ハ天頂ヲ距ル一十度時候
ハサルジニアロベユスセトブリユスカンジャ及シリア諸

島。及ボルチユガル。アングリシオン。ガラナダ諸國。又悉里。亞
刺伯。波斯。及支那諸國ノ一地ニ異ナラス。

日本分テ五部トス。山城。越後。越前。關東。及奥州ナ
リ。更ニ西國。及四國アリ。マフヘウス氏ハ西國ヲ九
州ト名ク。内七州アリト云フ。然レモフランスカロン
氏ノ説大ニ信ス。一キニ似タリ。曰ク。教王アリ。猶
四國ニ一王。及三侯アルカ如シ。日本本島ニ二部
府アリ。京都。及江戸ナリ。マフヘウス氏ハ此地ニ五
十三王アリト云フ。就中最モ拔タルハ京都。及關
東ナリ。故ニ京都ハ二十四王ヲ指揮シ。關東ハ二

十九王ヲ指揮ス。然レモ近年以來諸王零落シテ一
將軍ノ手ニ歸ス。此將軍ハ江戸ニ大城ヲ築ク所
ナリ。

日本ニハ西國。及四國ノ外尚各種ノ島アリ。日向
高島。イキユイキユシ。カシガ。平戸。三宅島。オトネ。コレテ「ベル」
オキユ。ミユルガン。アハンス。メトガマ。ノホ。宮ノ島。佐渡ナ
リ。銀坑。及ヒ火山多シ。火焰高ク。天ヲ衝クアリ。四
國。及種ケ島ノ西ニアリ。
奥州ハ日本ノ北東部ナリ。未開ノ蝦夷ニ接ス。薩
哈連。ト蝦夷トノ間ニ入口ナシ。唯荒漠ナル連山

三十里ニテ。奥州ニ接スルノミ。
蝦夷ノ廣袤未ク詳ナラス。山多ク貴重ナル毛皮
ヲ産ス。日本將軍時々之ヲ探訪スルカ爲ニ人ヲ
送り。蝦夷地ノ境界ヲ求メシムレド未ク詳ナラ
ス。峻山ヲ越テ深ク内地ニ入ルモ終ニ窮極ヲ知
ラズ。土人ハ粗朴ナル野蠻人ナリ。其地ノ大ナル
ヲ知ルヘシ。此ノ如キヲ以テ探訪人モ歸去セサ
ルヲ得ス。

○先耶蘇教徒ロテウエーキフロイウス氏。印土耶蘇教徒ニ
千五百六十五年。二月二十八日。京都ヨリ書ヲ寄
永禄八年。

蝦夷蠻人。

テ蝦夷地方人民ノ状ヲ報スル。左ノ如シ。日
本ノ北部ニ一大地アリ。蠻人ノ住スル所ナリ。京
都ヲ距ル。三百里ナリ。其人獸皮ヲ着テ。全身毛
アリ。驚クヘク多髭ナリ。飲食スル片大ニ妨碍ト
ナルカ故ニ。小棍ニテ之ヲ掲ク。大ニ酒ヲ嗜ミ。闘
争ヲ好ム。而シテ日本人ヲ恐ル。闘争シテ損傷スレ
ハ。創所ヲ塩水ニテ洗フ。以テ無比ノ良法トス。胸
ニ鏡ヲ懸ク。劍ヲ頭上ニ戴ク。柄ハ肩ニアリ。宗教
ナシ。唯天ヲ拝ス。秋田ハ極テ大市ナリ。日本ノ東
北地方ニアリ。蠻人群ヲ爲シ。來テ貿易ス。且秋田

ヨリモ彼ニ至ル者アレヒ多カラス。他方人此地ニ至ル者アレハ。土人其頸ヲ刎ス。地圖ニモ地球儀ニモ秋田以外ハ唯海トナス。諸氏之ヲ考フルト久シケレヒ。未夕其詳ヲ得ス。上ニ記スル所ノ教徒ノ説ヲ以テスルニ此人ハ久シク日本ニ住セシカ故ニ他ノ歐羅巴人ヨリハ知ル所明ラカナリ。日本ノ大ナルハ未夕之ヲ紙上ニ確記スル者ナモト虽尋常思察スルヨリ更ニ廣大ナルヲ知ルヘシ。又日本江戸將軍ヘノ使節ヲラシスカロシ氏ノ説ニモ日本ノ廣

表人口詳ナラストス。

故ニマスセウス氏。日本ノ長サヲ三百里。最モ狭キ所ヲ三十里トスルハ誤ナリ。クリエヘリウス氏ハ其紀事中長サヲ百五里。最モ狭キヲ七十里トス。亦誤ナリ。

耶蘇教徒コルネリスハサルト氏。日本紀事中記スル所誰カ其虚言ヲ信セン。余今其全文ヲ掲ケ。看官ヲシテ其謬誤スル所以ヲ悟ラシメ。之ヲ証スルニ他説ヲ以テセントス。
一 説ニ斯ク言フ。又ジヤパン國人

ハニツポント唾ア東方ノ海角ニアリ。亞細亞ノ後
端ナリ。又那境ト相距ル遠カラス。六十里ニ過キ
ス。亞瑪港ノ西二百九十七里南ニ大海アリ。何ノ
地ニ對スルヤ未夕知ル所ナシ。日本人ハ世界ノ
端ナリト云フ。大小島アリ。故ニ我地理學家モ群
島國ト為スノミ。大別シテ日本九州及四國トス。
六十六州ニ成ル。日本島ニハ五十三州アリ。其首
府ハ京都ナリ。九州ニハ九州アリ。其最ナル者ハ
肥前府内及鹿兒島ナリ。四國ニハ四州アルノミ。
之ヲ總括スレハ其大サ伊太利ノ如シ。

